

日立アドバンスサーバ
HA8000シリーズ

HITACHI
Inspire the Next

ユーザーズガイド

～導入編～

HA8000/RS110 AM/BM/CM

HA8000

2013年6月～モデル

マニュアルはよく読み、保管してください。

製品を使用する前に、安全上の指示をよく読み、十分理解してください。
このマニュアルは、いつでも参照できるように、手近な所に保管してください。

R11BM01100-2

登録商標・商標

Microsoft、Windows、Windows Server、Hyper-V は米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標または商標です。

インテル、Intel、Xeon はアメリカ合衆国およびその他の国における Intel Corporation の商標または登録商標です。

Linux は Linus Torvalds 氏の日本およびその他の国における登録商標または商標です。

Red Hat は米国およびその他の国における Red Hat, Inc. の商標または登録商標です。

VMware、vCenter、VMware vSphere、ESX、ESXi は米国およびその他の国における VMware, Inc. の登録商標または商標です。

80PLUS は、米国 Ecos Consulting, Inc. の米国およびその他の国における登録商標または商標です。

そのほか、本マニュアル中の製品名および会社名は、各社の商標または登録商標です。

発行

2013年6月（初版）（廃版）

2013年9月（第2版）

著作権

このマニュアルの内容はすべて著作権によって保護されています。このマニュアルの内容の一部または全部を、無断で転載することは禁じられています。

© Hitachi, Ltd. 2013. All rights reserved.

お知らせ

重要なお知らせ

- 本書の内容の一部、または全部を無断で転載したり、複製することは固くお断りします。
- 本書の内容について、改良のため予告なしに変更することがあります。
- 本書の内容については万全を期しておりますが、万一ご不審な点や誤りなど、お気づきのことがありましたら、お買い求め先へご一報くださいますようお願いいたします。
- 本書に準じないで本製品を運用した結果については責任を負いません。
なお、保証と責任については保証書裏面の「保証規定」をお読みください。

システム装置の信頼性について

ご購入いただきましたシステム装置は、一般事務用を意図して設計・製作されています。生命、財産に著しく影響のある高信頼性を要求される用途への使用は意図されていませんし、保証もされていません。このような高信頼性を要求される用途へは使用しないでください。

高信頼性を必要とする場合には別システムが必要です。弊社営業部門にご相談ください。

一般事務用システム装置が不適当な、高信頼性を必要とする用途例

・化学プラント制御 ・医療機器制御 ・緊急連絡制御など

規制・対策などについて

□ 電波障害自主規制について

この装置は、クラス A 情報技術装置です。この装置を家庭環境で使用すると電波妨害を引き起こすことがあります。この場合には使用者が適切な対策を講ずるよう要求されることがあります。

VCCI-A

□ 電源の瞬時電圧低下対策について

本製品は、落雷などによる電源の瞬時電圧低下に対して不都合が生じることがあります。電源の瞬時電圧低下対策としては、交流無停電電源装置などを使用されることをお勧めします。(詳しくは本文をご参照ください。)

□ 高調波電流規格：JIS C 61000-3-2 適合品

JIS C 61000-3-2 適合品とは、日本工業規格「電磁両立性—第 3-2 部：限度値—高調波電流発生限度値（1 相当当たりの入力電流が 20A 以下の機器）」に基づき、商用電力系統の高調波環境目標レベルに適合して設計・製造した製品です。

□ 雑音耐力について

本製品の外来電磁波に対する耐力は、国際電気標準会議規格 IEC61000-4-3「放射無線周波電磁界イミュニティ試験」のレベル 2 に相当する規定に合致していることを確認しております。

なお、レベル 2 とは、対象となる装置に近づけないで使用されている低出力の携帯型トランシーバから受ける程度の電磁環境です。

□ 輸出規制について

本製品を輸出される場合には、外国為替および外国貿易法の規制ならびに米国の輸出管理規制など外国の輸出関連法規をご確認のうえ、必要な手続きをお取りください。なお、ご不明な場合は、お買い求め先にお問い合わせください。

また、本製品に付属する周辺機器やソフトウェアも同じ扱いとなります。

□ 海外での使用について

本製品は日本国内専用です。国外では使用しないでください。

なお、他国には各々の国で必要となる法律、規格などが定められており、本製品は適合していません。

□ システム装置の廃棄について

事業者が廃棄する場合、廃棄物管理表（マニフェスト）の発行が義務づけられています。詳しくは、各都道府県産業廃棄物協会にお問い合わせください。廃棄物管理表は（社）全国産業廃棄物連合会に用意されています。個人が廃棄する場合、お買い求め先にご相談いただくか、地方自治体の条例または規則にしたがってください。

また、システム装置内の電池を廃棄する場合もお買い求め先にご相談いただくか、地方自治体の条例または規則にしたがってください。

システム装置の廃棄・譲渡時のデータ消去に関するご注意

システム装置を譲渡あるいは廃棄するときには、ハードディスク / SSD の重要なデータ内容を消去する必要があります。

ハードディスク / SSD 内に書き込まれた「データを消去する」という場合、一般に

- データを「ゴミ箱」に捨てる
- 「削除」操作を行う
- 「ゴミ箱を空にする」コマンドを使って消す
- ソフトで初期化（フォーマット）する
- OS を再インストールする

などの作業をしますが、これらのことをしても、ハードディスク / SSD 内に記録されたデータのファイル管理情報が変更されるだけです。つまり、一見消去されたように見えますが、OS のもとでそれらのデータを呼び出す処理ができなくなっただけであり、本来のデータは残っているという状態にあります。

したがって、データ回復のためのソフトウェアを利用すれば、これらのデータを読みとることが可能な場合があります。このため、悪意のある人により、システム装置のハードディスク / SSD 内の重要なデータが読みとられ、予期しない用途に利用されるおそれがあります。

ハードディスク / SSD 上の重要なデータの流出を回避するため、システム装置を譲渡あるいは廃棄をする前に、ハードディスク / SSD に記録された全データをお客様の責任において消去することが非常に重要です。消去するためには、専用ソフトウェアあるいはサービス（共に有償）を利用するか、ハードディスク / SSD を金づちや強磁気により物理的・磁氣的に破壊して、データを読みなくすることをお勧めします。

なお、ハードディスク / SSD 上のソフトウェア（OS、アプリケーションソフトなど）を削除することなくシステム装置を譲渡すると、ソフトウェアライセンス使用許諾契約に抵触する場合がありますため、十分な確認を行う必要があります。

はじめに

このたびは日立のシステム装置をお買い上げいただき、誠にありがとうございます。このマニュアルは、システム装置の設置と接続や取り扱いの注意など、使用するために必要な事柄について記載しています。

マニュアルの表記

マニュアル内で使用しているマークの意味は次のとおりです。

 警告	これは、死亡または重大な傷害を引き起こすおそれのある潜在的な危険の存在を示すのに用います。
 注意	これは、軽度の傷害、あるいは中程度の傷害を引き起こすおそれのある潜在的な危険の存在を示すのに用います。
通知	これは、人身傷害とは関係のない損害を引き起こすおそれのある場合に用います。
 制限	システム装置の故障や障害の発生を防止し、正常に動作させるための事項を示します。
 補足	システム装置を活用するためのアドバイスを示します。

□ システム装置の表記について

このマニュアルでは、システム装置を装置と略して表記することがあります。

また、システム装置を区別する場合には次のモデル名で表記します。

RS110 AM/BM/CM モデル

システム装置のモデルすべてを表す場合には

RS110 xM モデル

と表記します。

□ オペレーティングシステム (OS) の略称について

このマニュアルでは、次の OS 名称を省略して表記します。

- Microsoft® Windows Server® 2012 Standard 日本語版
(以下 Windows Server 2012 Standard または Windows Server 2012、Windows)
- Microsoft® Windows Server® 2008 R2 Standard 日本語版
(以下 Windows Server 2008 R2 Standard または Windows Server 2008 R2、Windows)
- Red Hat Enterprise Linux Server 6.4 (64-bit x86_64)
(以下 RHEL6.4 (64-bit x86_64) または RHEL6.4、RHEL6、Linux)
- Red Hat Enterprise Linux Server 6.4 (32-bit x86)
(以下 RHEL6.4 (32-bit x86) または RHEL6.4、RHEL6、Linux)
- VMware vSphere® ESXi™ 5.1
(以下 VMware vSphere ESXi 5.1 または VMware vSphere ESXi、VMware)

なお次のとおり、省略した「OS 表記」は、「対象 OS」中のすべてまたは一部を表すときに用います。

OS 表記	対象 OS
Windows Server 2012 Standard *1 Windows Server 2012 *1	・ Windows Server 2012 Standard *1
Windows Server 2008 R2 Standard *1 Windows Server 2008 R2 *1	・ Windows Server 2008 R2 Standard *1
Windows	・ Windows Server 2012 Standard *1 ・ Windows Server 2008 R2 Standard *1
RHEL6.4 RHEL6 Linux	・ RHEL6.4 (64-bit x86_64) ・ RHEL6.4 (32-bit x86)
VMware vSphere ESXi 5.1 VMware vSphere ESXi VMware	・ VMware vSphere ESXi 5.1

*1 64bit 版のみ提供されます。

また、Windows の Service Pack についても SP と表記します。

安全にお使いいただくために

安全に関する注意事項は、下に示す見出しによって表示されます。これは安全警告記号と「警告」、「注意」および「通知」という見出し語を組み合わせたものです。

	これは、安全警告記号です。人への危害を引き起こす潜在的な危険に注意を喚起するために用います。起こりうる傷害または死を回避するためにこのシンボルのあとに続く安全に関するメッセージにしたがってください。
 警告	これは、死亡または重大な傷害を引き起こすおそれのある潜在的な危険の存在を示すのに用います。
 注意	これは、軽度の傷害、あるいは中程度の傷害を引き起こすおそれのある潜在的な危険の存在を示すのに用います。

通知	これは、人身傷害とは関係のない損害を引き起こすおそれのある場合に用います。
-----------	---------------------------------------



【表記例 1】 感電注意

▲の図記号は注意していただきたいことを示し、▲の中に「感電注意」などの注意事項の絵が描かれています。



【表記例 2】 分解禁止

⊘の図記号は行ってはいけないことを示し、⊘の中に「分解禁止」などの禁止事項の絵が描かれています。

なお、⊘の中に絵がないものは、一般的な禁止事項を示します。



【表記例 3】 電源プラグをコンセントから抜け

●の図記号は行っていただきたいことを示し、●の中に「電源プラグをコンセントから抜け」などの強制事項の絵が描かれています。

なお、❗は一般的に行っていただきたい事項を示します。

安全に関する共通的な注意について

次に述べられている安全上の説明をよく読み、十分理解してください。

- 操作は、このマニュアル内の指示、手順にしたがって行ってください。
- 本製品やマニュアルに表示されている注意事項は必ず守ってください。
- 本製品に搭載または接続するオプションなど、ほかの製品に添付されているマニュアルも参照し、記載されている注意事項を必ず守ってください。

これを怠ると、人身上の傷害やシステムを含む財産の損害を引き起こすおそれがあります。

操作や動作は

マニュアルに記載されている以外の操作や動作は行わないでください。

本製品について何か問題がある場合は、電源を切り、電源プラグをコンセントから抜いたあと、お買い求め先にご連絡いただくか保守員をお呼びください。

自分自身でもご注意を

本製品やマニュアルに表示されている注意事項は、十分検討されたものです。それでも、予測を超えた事態が起こることが考えられます。操作にあたっては、指示にしたがうだけでなく、常に自分自身でも注意するようにしてください。

一般的な安全上の注意事項

本製品の取り扱いにあたり次の注意事項を常に守ってください。



電源コードの取り扱い

電源コードは付属のものおよびサポートオプションを使用し、次のことに注意して取り扱ってください。取り扱いを誤ると、電源コードの銅線が露出したり、ショートや一部断線で過熱して、感電や火災の原因となります。

- 物を載せない
- 引っばらない
- 押し付けない
- 折り曲げない
- ねじらない
- 加工しない
- 熱器具のそばで使用しない
- 加熱しない
- 束ねない
- ステップルなどで固定しない
- コードに傷が付いた状態で使用しない
- 紫外線や強い可視光線を連続して当てない
- アルカリ、酸、油脂、湿気へ接触させない
- 高温環境で使用しない
- 定格以上で使用しない
- ほかの装置で使用しない
- 電源プラグを持たずにコンセントの抜き差しをしない
- 電源プラグをぬれた手で触らない

なお、電源プラグはすぐに抜けるよう、コンセントの周りには物を置かないでください。



タコ足配線

同じコンセントに多数の電源プラグを接続するタコ足配線はしないでください。コードやコンセントが過熱し、火災の原因となるとともに、電力使用量オーバーでブレーカが落ち、ほかの機器にも影響を及ぼします。



電源プラグの接触不良やトラッキング

電源プラグは次のようにしないと、トラッキングの発生や接触不良で過熱し、火災の原因となります。

- 電源プラグは根元までしっかり差し込んでください。
- 電源プラグはほこりや水滴が付着していないことを確認し、差し込んでください。付着している場合は乾いた布などでふき取ってから差し込んでください。
- グラグラしないコンセントを使用してください。
- コンセントの工事は、専門知識を持った技術者が行ってください。



電池の取り扱い

電池の交換は保守員が行います。交換は行わないでください。また、次のことに注意してください。取り扱いを誤ると過熱・破裂・発火などが原因となります。

- 充電しない
- ショートしない
- 分解しない
- 加熱しない
- 変形しない
- 焼却しない
- 水にぬらさない



修理・改造・分解

本マニュアルに記載のない限り、自分で修理や改造・分解をしないでください。感電や火災、やけどの原因となります。特に電源ユニット内部は高電圧部が数多くあり、万一触ると危険です。



レーザー光

DVD-ROMドライブやDVD-RAMドライブなどレーザーデバイスの内部にはレーザー光を発生する部分があります。分解・改造をしないでください。また、内部をのぞきこんだりしないでください。レーザー光により視力低下や失明のおそれがあります。
(レーザー光は目に見えない場合があります。)



梱包用ポリ袋

装置の梱包用エアキャップなどのポリ袋は、小さなお子様の手の届くところに置かないでください。かぶったりすると窒息するおそれがあります。



電源コンセントの取り扱い

電源コンセントは接地型2極差込コンセントをご使用ください。その他のコンセントを使用すると感電のおそれがあります。

→ 「1.3.3 コンセントについて」 P.6



目的以外の使用

踏み台やブックエンドなど、PC サーバとしての用途以外にシステム装置を利用しないでください。壊れたり倒れたりし、けがや故障の原因となります。



信号ケーブル

- ケーブルは足などを引っかけたり、引っばったりしないように配線してください。引っかけたり、引っばったりするとけがや接続機器の故障の原因となります。また、データ消失のおそれがあります。
- ケーブルの上に重量物を載せないでください。また、熱器具のそばに配線しないでください。ケーブル被覆が破れ、接続機器などの故障の原因となります。



装置上に物を置く

システム装置の上には周辺機器や物を置かないでください。周辺機器や物がすべり落ちてけがの原因となります。また、置いた物の荷重によってはシステム装置の故障の原因となります。



ラックキャビネット搭載時の取り扱い

ラックキャビネット搭載時、装置上面の空きエリアを棚または作業空間として使用しないでください。装置上面の空きエリアに重量物を置くと、落下によるけがの原因となります。



眼精疲労

ディスプレイを見る環境は 300 ～ 1000 ルクス の明るさにしてください。また、ディスプレイを見続ける作業をするときは1時間に10分から15分程度の休息を取ってください。長時間ディスプレイを見続けると目に疲労が蓄積され、視力の低下を招くおそれがあります。

装置の損害を防ぐための注意



装置使用環境の確認

装置の使用環境は「1.2 設置環境」P.4 に示す条件を満足してください。たとえば、温度条件を超える高温状態で使用すると、内部の温度が上昇し装置の故障の原因となります。



使用する電源

使用できる電源は AC100V です。それ以外の電圧では使用しないでください。電圧の大きさにしたがって内部が破損したり過熱・劣化して、装置の故障の原因となります。



温度差のある場所への移動

移動する場所間で温度差が大きい場合は、表面や内部に結露することがあります。結露した状態で使用すると装置の故障の原因となります。すぐに電源を入れたりせず、使用する場所で数時間そのまま放置し、室温と装置内温度がほぼ同じに安定してから使用してください。たとえば、5℃の環境から 25℃の環境に持ち込む場合、2時間ほど放置してください。



通気孔

通気孔は内部の温度上昇を防ぐためのものです。物を置いたり立てかけたりして通気孔をふさがないでください。内部の温度が上昇し、発煙や故障の原因となります。また、通気孔は常にほこりが付着しないよう、定期的に点検し、清掃してください。



装置内部への異物の混入

装置内部への異物の混入を防ぐため、次のことに注意してください。異物によるショートや異物のたい積による内部温度上昇が生じ、装置の故障の原因となります。

- 通気孔などから異物を中に入れない
- 花ピン、植木鉢などの水の入った容器や虫ピン、クリップなどの小さな金属類を装置の上や周辺に置かない
- 装置のカバーを外した状態で使用しない



強い磁気の発生体

磁石やスピーカなどの強い磁気を発生するものを近づけないでください。システム装置の故障の原因となります。



落下などによる衝撃

落下させたりぶつけるなど、過大な衝撃を与えないでください。内部に変形や劣化が生じ、装置の故障の原因となります。



接続端子への接触

コネクタなどの接続端子に手や金属で触れたり、針金などの異物を挿入したりしてショートさせないでください。発煙したり接触不良の故障の原因となります。



煙霧状の液体

煙霧状の殺虫剤などを使用するときは、事前にビニールシートなどでシステム装置を完全に包んでください。システム装置内部に入り込むと故障の原因となります。また、このときシステム装置の電源は切ってください。



装置の輸送

システム装置を輸送する場合、常に梱包を行ってください。また、梱包する際はマザーボード側（システム装置背面から見てコネクタ類のある側）が下となるよう、向きに注意してください。梱包しなかったり、間違った向きで輸送すると、装置の故障の原因となります。なお、工場出荷時の梱包材の再利用は 1 回のみ可能です。



サポート製品の使用

流通商品のハードウェア・ソフトウェア（他社から購入される Windows も含む）を使用された場合、システム装置が正常に動作しなくなったり故障したりすることがあります。この場合の修理対応は有償となります。システム装置の安定稼動のためにも、サポートしている製品を使用してください。



バックアップ

ハードディスク / SSD のデータなどの重要な内容は、補助記憶装置にバックアップを取ってください。ハードディスク / SSD が壊れると、データなどがすべてなくなってしまう。



ディスクアレイを構成するハードディスク / SSD の複数台障害

リビルドによるデータの復旧、およびリビルド後のデータの正常性を保証することはできません。リビルドを行ってディスクアレイ構成の復旧に成功したように見えても、リビルド作業中に読めなかったファイルは復旧できません。

障害に備え、必要なデータはバックアップをお取りください。

なお、リビルドによるデータ復旧が失敗した場合のリストアについては、お客様ご自身で行っていただく必要があります。

（リビルドによる復旧を試みる分、復旧に時間がかかります。）

本マニュアル内の警告表示

警告

周辺機器や内蔵オプションの増設や接続

周辺機器や内蔵オプションを増設・接続するときは、特に指示がない限りすべての電源プラグをコンセントから抜き、すべてのケーブル類を装置から抜いてください。感電や装置の故障の原因となります。

また、マニュアルの説明にしたがい、マニュアルで使用できることが明記された周辺機器・内蔵オプション・ケーブル・電源コードを使用してください。それ以外のものを使用すると、接続仕様の違いにより周辺機器・内蔵オプションや装置の故障、発煙、発火や火災の原因となります。

『関連ページ』 → [P.38](#)

ラック搭載

- ラックキャビネットの 31U より上にシステム装置を取り付けたり、取り付けられている場合は、お客様自身による作業は行わず、保守員にお任せください。
取り付け不備によりシステム装置が落下し、けがをした
り装置が故障するおそれがあります。
- ラックキャビネットから装置を引き出して作業を行う場合、ラックキャビネットにフロントスタビライザーを取り付けてください。むりな力がかかるとラックキャビネットが転倒し、けがや故障の原因となります。
取り付けられていない場合は保守員をお呼びください。

『関連ページ』 → [P.29](#)

注意

不安定な場所での使用

傾いたところや狭い場所など不安定な場所には置かないでください。落ちたり倒れたりして、けがや装置の故障の原因となります。

『関連ページ』 → [P.28](#)

重量物の扱いについて

装置などの重量物を移動したり持ち上げたりする場合は、2人以上で扱ってください。腕や腰を痛める原因となります。

『関連ページ』 → [P.28](#)

ラック搭載

システム装置をラックキャビネットに搭載するときに使用するスライドレールには、ロックなど指をはさむおそれがある部位があります。けがの原因となりますのでご注意ください。

『関連ページ』 → [P.29](#)

ラックマウントキット

純正品以外のラックマウントキットを使用したり、ラックマウントキットを用いずにラックキャビネットに収納したりした状態では使用しないでください。システム装置の落下によるけがや装置の故障の原因となります。

『関連ページ』 → [P.29](#)

スライドレール

インナーレールがロックされるまで引き出してください。作業時にシステム装置が思いがけず動いて、指をはさんだりけがの原因となります。

『関連ページ』 → [P.35](#)

通知

システム装置の設置の向き

システム装置は正しく設置した状態で使用してください。縦向きに設置したり、上下を逆に設置したりしないでください。システム装置が正常に動作しなかったり、故障したりする原因となります。

『関連ページ』 → [P.29](#)

USB デバイスの取り扱い

オプションの USB メモリー（FK802G/FK804G）をシステム装置前面の USB コネクタ（フロント）に接続したままの状態ではラックキャビネットのフロントドアを閉めないでください。フロントドアと干渉して、故障の原因となるおそれがあります。

『関連ページ』 → [P.16](#)、[P.38](#)

キーボード、マウス、ディスプレイの取り扱い

キーボード、マウスはサポートしているオプション品を使用してください。その他のものを使用した場合、正常に動作しなかったり故障したりすることがあります。

『関連ページ』 → [P.21](#)、[P.39](#)

電源操作

- 電源操作は決められた手順にしたがって行ってください。決められた手順にしたがわずに電源を入れたり切ったりすると、装置の故障やデータの消失の原因となります。
- 電源を切る前に、すべてのアプリケーションの処理が終了していることと、接続されているデバイスや周辺機器にアクセスがない（停止している）ことをご確認ください。動作中に電源を切ると、装置の故障やデータの消失の原因となります。
- シャットダウン処理を行う必要がある OS をお使いの場合、シャットダウン処理が終了してから電源を切ってください。データを消失するおそれがあります。
なお、OS により電源を切る手順が異なりますので、OS に添付されるマニュアルもあわせてご参照ください。

『関連ページ』 → [P.46](#)、[P.48](#)

DVD-ROM ドライブ、DVD-RAM ドライブの取り扱い

- 次のことに注意して取り扱ってください。ドライブの故障の原因となります。
 - ・ ビジーインジケータの点灯中に電源を切らない
 - ・ トレイをむりに引き出したり押し込んだりしない
 - ・ 割れたり変形したディスクをドライブに入れない
 - ・ 異物をトレイに入れない
 - ・ 手動イジェクト穴はドライブが壊れたとき以外使用しない
- フロントベゼルを取り付けた状態またはラックキャビネットのフロントドアが閉じている状態で、ディスクをオートイジェクトまたはリモートイジェクトしないでください。また、トレイが引き出された状態でフロントベゼルを取り付けたり、ラックキャビネットのフロントドアを閉めたりしないでください。
トレイがフロントベゼルまたはフロントドアと干渉して、故障の原因となるおそれがあります。

『関連ページ』 → [P.23](#)、[P.24](#)

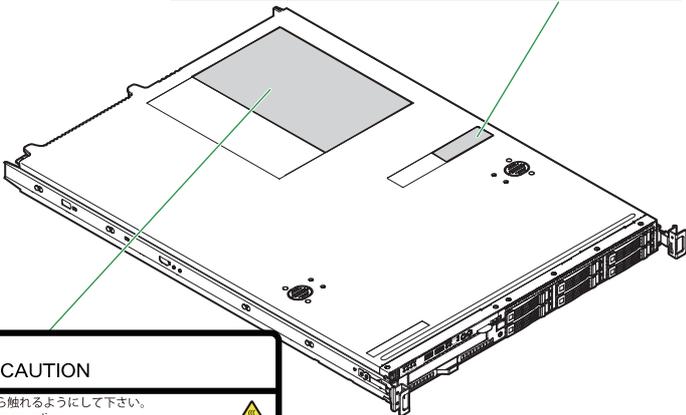
警告ラベルについて

警告ラベルはシステム装置の次に示す箇所に貼り付けられています。

システム装置を取り扱う前に、警告ラベルが貼り付けられていること、および警告ラベルの内容をご確認ください。もし警告ラベルが貼り付けられていなかったり、はがれやかすれなどで読みづらかったりする場合は、お買い求め先にご連絡いただくか、保守員をお呼びください。

また、警告ラベルは汚したりはがしたりしないでください。

 **注意：**
スライドレールに取り付けられた装置を棚又は作業台として使用しないでください。
CAUTION:
Slide rail mounted equipment is not to be used as a shelf or a work space.
注意：
请不要把安装在滑轨上面的设备作为架子或者是工作台使用。



 注意 CAUTION	
<p>高温になるコンポーネントがあります。十分に冷えてから触れるようにして下さい。 As some components may become very hot during system operation, give ample time to allow cooling as well as use precaution when handling internal components immediately after powering down. 有的部件可能会达到高温。请注意待其冷却之后再接触。 有的组件可能会达到高温。请注意须等冷却之后再接触。</p>	
<p>電源を切ってもバッテリーで稼働している部分があります。保守をする前に各々のコンポーネントの取り扱い説明書をお読みください。 Some internal components may still be operational on battery power. Refer to instruction manuals for this system as well as options prior to maintenance. 即使切断电源，有的部件也会依靠电池运转。在进行维护之前，请认真阅读各组件的使用说明书。 即使切断电源，有的组件也会依靠电池运转。在进行维护之前，请认真阅读各组件的使用说明书。</p>	
<p>オプションの取付け、取外し時は電源プラグをコンセントから抜き、外部装置と接続しているケーブルを外して下さい。 Disconnect all AC power cords from both system and external peripherals prior to installing/removing options. 进行可选配件的安装和拆卸时，请先从插座拔下电源插头并分离与外部设备间的线缆。 进行选装设备安装和拆卸时，请先把电源插头从插座中拔出，并取下与外部设备连接的线缆。</p>	 
<p>ネジは本体内部へ落とさない様、十分ご注意ください。 Do not drop any screws inside the system. 请注意不要让螺丝掉入设备内部。 请注意绝对不要将螺丝掉入设备内部。</p>	
<p>ボード及びオプション機器の接続の際は、必ずユーザーズガイドを参照し、正しく接続して下さい。 誤った接続は、故障や火災の原因となります。 Refer to the "User's Guide" when option board or peripherals are installed. Incorrect installations may result in damage to the system and lead to accidents. 连接板卡及可选设备时，请务必参照“用户指南”进行正确连接。 连接错误，有可能造成故障或火灾。 安装控制卡及选装设备时，请务必参照“用户指南”进行正确连接。 连接错误时，可能会造成故障或火灾。</p>	
<p>指をはさんだり、ぶつけたりしないように注意して下さい。 To avoid the risk of personal injury, be careful when accessing the inside of the system. 请小心不要夹住或碰伤手指。 请注意不要夹伤手指，或因碰撞而受伤。</p>	
<p>装置の持ち上げ、移動の際は、装置の底面をしっかりと持って持ち上げて下さい。 Firmly hold the bottom of the system when required to lift and carry the system. 抬起、移动设备时，请牢固抓住设备底部将其抬起。 抬起、搬运伺服器时，请牢牢抓住设备底部将其抬起。</p>	

マニュアルの使いかた

ここではシステム装置に添付されるマニュアルについて説明します。

マニュアルの構成

システム装置に関するマニュアルは、次のように CD-ROM/DVD-ROM に収録された電子マニュアルと、紙のマニュアルに分かれています。

メディア名称／マニュアル名称	内容
 CD-ROM 『ユーザーズガイド』	システム装置のマニュアル『ユーザーズガイド』や付属ソフトウェア、オプションデバイスのマニュアルが収録されています。 システム装置やオプションデバイスなどの使いかたや使用上の注意、トラブルへの対処、オプションデバイスの増設、Windows のセットアップ手順などを説明しています。 <ul style="list-style-type: none"> ■ 『Hitachi Server Navigator 関連マニュアル』 ■ 『JP1/ServerConductor 取扱説明書』 ■ ユーティリティソフトウェア取扱説明書 (RAID 管理ツールなど) ■ 『取扱説明書 システム情報採取ツール』 ■ オプション 拡張ボード取扱説明書 (LAN ボードなど) 『ユーザーズガイド』CD-ROM のマニュアル収録内容については CD-ROM 内の「Readme.html」をご参照ください。
 DVD-ROM 『Hitachi Server Navigator』	システム装置の導入、運用、メンテナンスをトータルにサポートする総合管理ツールです。 『Hitachi Server Navigator』の収録内容については DVD-ROM 内の「Support.html」をご参照ください。
 CD-ROM 『JP1/ServerConductor Blade Server Manager』	『JP1/ServerConductor』はシステム装置の管理ソフトウェアです。 詳細については CD-ROM 内の次のマニュアルをご参照ください。 <ul style="list-style-type: none"> ■ 『JP1/ServerConductor/Blade Server Manager 系 設計・構築ガイド』 ■ 『JP1/ServerConductor/Blade Server Manager 系 運用ガイド』
 紙マニュアル 『セットアップについて』	システム装置の設置や接続など、電子マニュアルを読むことができないときに必要な内容を電子マニュアル『ユーザーズガイド』から抜粋したマニュアルです。

マニュアルは、これ以外にも必要に応じて『お詫びと訂正』などの添付シートが添付されます。また、外付けオプションをご購入された場合は、外付けオプションのマニュアルも添付されます。

添付される CD-ROM などのメディアやマニュアル、添付シートは、ご購入のシステム装置やオプションにより異なりますので、システム装置の『同梱品チェックリスト』や外付けオプションの『添付品一覧』をご確認ください。

すべての CD-ROM・DVD-ROM・紙のマニュアル・添付シートは破棄せず、必要ときに読むことができるよう大切に保管してください。
 特に、黄色紙の添付シートが添付される場合、システム運用上重要な対処事項が記載されています。内容をよく確認し、十分理解してから対処・運用を行うようにしてください。
 また、使用する前に各マニュアルの安全上の注意事項をよく読み、必ず守ってください。

なお、『ユーザーズガイド』CD-ROM に格納されるマニュアルの最新版は、次の URL で公開しています。

■ 「日立サーバマニュアル：HA8000」

<http://www.hitachi.co.jp/Prod/comp/OSD/pc/ha/manual/index.html>

『ユーザーズガイド』 CD-ROM について

『ユーザーズガイド』CD-ROMは、レーベルに次のバージョンと対象モデルが表記されたものをお使いください。

- バージョン：HA800013*** (“**”、“*”は任意の数字で、“**”は“06”以降、“*”は“1”以降)
- 対象モデル：HA8000 Mモデル（2013年6月～）

『ユーザーズガイド』は内容により各編に分冊されています。各編の内容は次のとおりです。

マニュアル名称	内容
導入編	システム装置をお使いになる前に知っておいていただきたい内容と、安全に関する注意事項について説明しています。 また、システム装置の接続や設置、電源を入れる／切る操作について説明しています。
運用編	システム装置の運用時の監視や日常のお手入れ、エラーが発生したときや困ったときの対処方法について説明しています。 また、交換が必要な有寿命部品と消耗品について説明しています。
オプションデバイス編	システム装置に内蔵するオプションデバイスの取り付けについて説明しています。
Windows セットアップ編	Windows のセットアップに関する情報を記載しています。 <u>Windows の新規・再セットアップ手順や使用上の制限については、『Hitachi Server Navigator OS セットアップガイド』で説明しています。</u>
BIOS 編	システム装置のシステム BIOS や RAID BIOS について、起動・終了と設定項目の内容について説明しています。 また、RAID BIOS からディスクアレイを設定する方法について説明しています。
リモートマネジメント編	システム装置に標準搭載されているリモートマネジメント機能と、Web コンソールによる操作方法および設定項目について説明しています。

『ユーザーズガイド』CD-ROMには、付属ソフトウェアやオプションデバイスのマニュアルも収録されています。
『ユーザーズガイド』以外のマニュアルの詳細については『ユーザーズガイド』CD-ROM内の「Index.html」から、各マニュアルをご参照ください。

『Hitachi Server Navigator』 DVD について

『Hitachi Server Navigator』DVDは次の条件を満たすものをお使いください。なお、複数バージョンの『Hitachi Server Navigator』DVDがお手元にある場合、対象モデルに適合する最新バージョンをお使いください。

- バージョン：「02-10」以降のもの
- DVDの使用対象モデルとしてシステム装置が明記されているもの

『Hitachi Server Navigator』DVDのバージョンはレーベルに表示されています。また、『Hitachi Server Navigator』DVDの使用対象モデルは、DVDの「Support.html」に記載されています。

『JP1/ServerConductor Blade Server Manager』 CD-ROM について

『JP1/ServerConductor Blade Server Manager』CD-ROMはバージョン“09-56”以降をお使いください。

マニュアルの参照先

ここでは、システム装置の導入時や運用時にご参照いただく製品添付マニュアルおよび Web サイトについてご案内します。ぜひご一読いただき、お役立てください。

□ セットアップについて

システム装置のセットアップ時にご参照いただくマニュアルおよび Web サイトについてご案内します。

▶ セットアップの前に

システム装置をセットアップする前に、次のマニュアルを参照し、注意事項についてご確認ください。

- 『セットアップについて』または『ユーザーズガイド ～導入編～』「1 システム装置を導入する前に」

▶ システム装置の設置および接続

システム装置や周辺機器は、次のマニュアルを参照し、設置と接続を行ってください。

- 『セットアップについて』または『ユーザーズガイド ～導入編～』「3 システム装置の設置・接続」
- 外付けオプション添付マニュアル

▶ プレインストールモデル／インストール代行サービス付モデルのセットアップ

Windows プレインストールモデル／インストール代行サービス付モデルの初回起動時は、次のマニュアルを参照し、セットアップを行ってください。

- 『ユーザーズガイド ～Windows セットアップ編～』
- 『ユーザーズガイド』CD-ROM 収録マニュアル

▶ OS レスモデルの OS セットアップ または OS 再セットアップ

OS レスモデルにおける OS のセットアップ、または OS 再セットアップは、次のマニュアルを参照して行ってください。

- 『ユーザーズガイド』CD-ROM 『Hitachi Server Navigator OS セットアップガイド』

▶ 付属ソフトウェアのセットアップ

付属ソフトウェアは、次のマニュアルを参照し、セットアップを行ってください。

- 『ユーザーズガイド』CD-ROM 収録マニュアル※
- 『JP1/ServerConductor Blade Server Manager』CD-ROM 収録マニュアル

※ご使用になる OS に合わせてご参照ください。

▶ オプションデバイスのドライバ・ユーティリティのセットアップ

オプションデバイスは次のマニュアルを参照し、ドライバやユーティリティなどのセットアップを行ってください。

- 『ユーザーズガイド』 CD-ROM 収録マニュアル
…オプション 拡張ボード取扱説明書
- 外付けオプション添付マニュアル

セットアップ時には、「HA8000 ホームページ」のダウンロードサイトで最新のドライバやユーティリティ、BIOS、ファームウェアがないか確認してください。

URL : <http://www.hitachi.co.jp/Prod/comp/OSD/pc/ha/download/index.html>

特に、黄色紙の添付シートが添付される場合、システム運用上重要な対処事項が記載されています。内容をよく確認し、十分理解してから対処事項を実施してください。

また、黄色紙ではない添付シートに対処事項が記載されている場合も、同様に実施してください。

その他、『お詫びと訂正』が添付される場合は忘れずに確認してください。

□ システム運用について

システム装置の運用時、定期的に行っていただく内容とその参照先についてご案内します。

詳細については『ユーザーズガイド ～運用編～』をご参照ください。

- 管理ユーティリティ『JP1/ServerConductor』によるモニタリングを行ってください。[毎日]
 - ◆ 『JP1/ServerConductor Blade Server Manager』 CD-ROM 『JP1/ServerConductor/Blade Server Manager 系 運用ガイド』
- RAID 管理ツール『Hitachi RAID Navigator』によるモニタリングを行ってください。[毎日]
 - ◆ 『ユーザーズガイド』 CD-ROM 『Hitachi Server Navigator ユーザーズガイド RAID 管理機能』
- ドライバ、ユーティリティ、BIOS、ファームウェアのアップデートがないか、「HA8000 ホームページ」のダウンロードサイトを確認してください。[1ヶ月に1回程度]

URL : <http://www.hitachi.co.jp/Prod/comp/OSD/pc/ha/download/index.html>

なお、『Hitachi Server Navigator』を適用することにより、最新版のファームウェアおよびドライバの有無を確認し、ダウンロードおよびアップデートを実施することが可能です。

使いかたの詳細は『ユーザーズガイド』 CD-ROM に格納される『Hitachi Server Navigator ユーザーズガイド』をご参照ください。

- OS の制限事項などが新たに判明していないか、「HA8000 ホームページ」「製品」サイトの「ソフトウェア」を確認してください。[1ヶ月に1回程度]

URL : <http://www.hitachi.co.jp/Prod/comp/OSD/pc/ha/products/software/index.html>

- OS のセキュリティアップデートを確認・実施してください。[1ヶ月に1回程度]
 - ◆ OS ベンダのサイトなど
- システム装置や内蔵オプション、外付けオプションの動作状況（ランプの点灯状態、FAN の異常音の有無など）を確認してください。[6ヶ月に1回程度]
 - ◆ 『ユーザーズガイド ～運用編～』 「付録」 「付録 A お手入れと交換品」
 - ◆ 『ユーザーズガイド』 CD-ROM オプション 拡張ボード取扱説明書

- システム装置や内蔵オプション、外付けオプションのクリーニングを行ってください。[6ヶ月に1回程度]
 - ◆ 『ユーザーズガイド ~運用編~』「付録」「付録 A お手入れと交換品」
 - ◆ 『ユーザーズガイド』CD-ROM オプション 拡張ボード取扱説明書
 - ◆ 外付けオプション添付マニュアル

□ 障害発生時について

システム装置の運用時に問題が発生した場合、その対処とご参照いただくマニュアルおよび Web サイトについてご案内します。

- 異常、エラー状況の確認
 - ◆ 『ユーザーズガイド ~運用編~』「付録」「付録 C エラーが発生したときは」
 - ◆ 『ユーザーズガイド』CD-ROM 『Hitachi Server Navigator OS セットアップガイド』
 - ◆ 『ユーザーズガイド』CD-ROM オプション 拡張ボード取扱説明書
 - ◆ 外付けオプション添付マニュアル
 - 管理ユーティリティ『JP1/ServerConductor』のアラートの確認 および ログの採取
 - ◆ 『JP1/ServerConductor Blade Server Manager』CD-ROM 『JP1/ServerConductor/Blade Server Manager 系 運用ガイド』
 - ◆ 『JP1/ServerConductor Blade Server Manager』CD-ROM 『JP1/ServerConductor/Blade Server Manager 系 メッセージ』
 - RAID 管理ツール『Hitachi RAID Navigator』のイベントログの確認
 - ◆ 『ユーザーズガイド』CD-ROM 『Hitachi Server Navigator ユーザーズガイド RAID 管理機能』
 - 『Log Monitor』のイベントログの確認
 - ◆ 『ユーザーズガイド』CD-ROM 『Hitachi Server Navigator ユーザーズガイド Log Monitor 機能』
 - OS イベントログの確認※
 - ◆ OS 添付マニュアルおよび OS ベンダのサイトなど
- ※ 「IT Report Utility」 / 「システム情報採取ツール」により効率的に採取することができます。

異常状況を改善するためのドライバやユーティリティ、BIOS、ファームウェアが提供されている場合があります。「HA8000 ホームページ」のダウンロードサイトをご確認ください。

URL : <http://www.hitachi.co.jp/Prod/comp/OSD/pc/ha/download/index.html>

電子マニュアルの使いかた

ここでは、電子マニュアルを読む方法を説明します。

□ 使う前の準備

はじめに、Adobe Reader をインストールする必要があります。Windows が立ち上がるシステム装置に、次の手順でインストールしてください。

なお、すでに Acrobat、Acrobat Reader または Adobe Reader がインストールされているシステム装置を使用する場合、Adobe Reader をインストールする必要はありません。



Adobe Reader については、HCA センタまでお問い合わせください。アドビシステムズ株式会社では、お問い合わせを直接受け付けていません。

- 1 CD/DVD ドライブに『ユーザーズガイド』CD-ROM を入れます。
- 2 [スタート] - [ファイル名を指定して実行] をクリックします。
[ファイル名を指定して実行] が表示されます。
- 3 d:¥Adobe_Reader¥AdbeRdr11002_ja_JP.exe と入力し、[OK] ボタンをクリックします。
d は CD/DVD ドライブ名を示します。
しばらくして [Adobe Reader XI セットアップ] が表示されます。
- 4 画面の指示にしたがってインストールします。
- 5 インストールが終了したら、CD/DVD ドライブから CD-ROM を取り出します。

□ 電子マニュアルを開く／閉じる

『ユーザーズガイド』CD-ROM を CD/DVD ドライブに入れると、OS のブラウザが起動して機種選択画面が表示されます。



CD-ROM を入れても何も表示されない場合は、[マイコンピュータ] 中の CD/DVD ドライブを開き、Index.html をダブルクリックしてください。

機種選択画面で各機種のマニュアルを選択すると、電子マニュアルが表示されます。

電子マニュアルを閉じるには、ウィンドウ右上の [×] ボタンをクリックします。



Acrobat、Acrobat Reader および Adobe Reader の使いかたについては、それぞれのヘルプをご参照ください。

目次

登録商標・商標	ii
発行	ii
著作権	ii
お知らせ	iii
重要なお知らせ	iii
システム装置の信頼性について	iii
規制・対策などについて	iii
システム装置の廃棄・譲渡時のデータ消去に関するご注意	v
はじめに	vi
マニュアルの表記	vi
安全にお使いいただくために	viii
一般的な安全上の注意事項	ix
装置の損害を防ぐための注意	xi
本マニュアル内の警告表示	xiii
警告ラベルについて	xv
マニュアルの使いかた	xvi
マニュアルの構成	xvi
マニュアルの参照先	xviii
電子マニュアルの使いかた	xxi
目次	xxii
1 システム装置を導入する前に	1
1.1 納入時の確認	2
1.1.1 梱包品の確認	2
1.1.2 システム装置のモデルについて	2
1.2 設置環境	4
1.3 制限事項	5
1.3.1 システム装置・周辺機器の使用環境	5
1.3.2 システム装置・周辺機器の取り扱い	5
1.3.3 コンセントについて	6
1.4 付属ソフトウェアについて	7
1.4.1 Hitachi Server Navigator	7
1.4.2 JP1/ServerConductor	7
1.4.3 Hitachi RAID Navigator	8
1.4.4 Log Monitor（ハードウェア保守エージェント）	8
1.4.5 IT Report Utility/ システム情報採取ツール	8
1.5 セットアップの流れ	9
1.5.1 注意事項	9
1.5.2 セットアップ手順	9

2	システム装置の基礎知識	11
2.1	システム装置の特長	12
2.2	システム装置各部の名称と機能	13
2.2.1	前面	13
2.2.2	操作パネル	15
2.2.3	背面	19
2.3	内蔵 DVD ドライブの使いかた	22
2.3.1	各部の名称と機能	22
2.3.2	ディスクを入れる・取り出す	23
2.3.3	ディスクについて	25
2.3.4	取り扱いについて	25
3	システム装置の設置・接続	27
3.1	システム装置の設置	28
3.1.1	システム装置のラック搭載について	29
3.1.2	フロントベゼルを取り付ける・取り外す	37
3.2	システム装置の接続	38
3.2.1	ディスプレイ・キーボード・マウス	39
3.2.2	電源コード	41
3.2.3	無停電電源装置 (UPS)	42
3.2.4	LAN ケーブル	43
3.2.5	その他外付けオプションデバイス	44
4	電源の操作	45
4.1	電源を入れる / 切る	46
4.1.1	電源を入れる	46
4.1.2	電源を切る	48
5	仕様	51
5.1	システム装置の仕様	52
5.1.1	RS110 AM/BM モデル	52
5.1.2	RS110 CM モデル	55
	付録	59
	付録 A お問い合わせ先	60
	付録 A.1 最新情報・Q&A・ダウンロードは	60
	付録 A.2 操作や使いこなしについて	61
	付録 A.3 ハードウェア障害について	62
	付録 A.4 欠品・初期不良・故障について	62
	付録 A.5 技術的なお問い合わせ先について	62

付録 B サポート & サービスのご案内	63
付録 B.1 ハードウェア保守サービスについて	63
付録 B.2 技術支援サービスについて	65
付録 C ロングライフサポートサービスについて	66
付録 C.1 ロングライフサポートサービスの概要	66
付録 C.2 対象モデル	66
付録 C.3 セルフチェックシートについて	66
付録 D 預けて安心ロングライフモデルについて	67
付録 D.1 預けて安心ロングライフモデルの概要	67
付録 D.2 対象モデル	67
索引	68

1

システム装置を導入する前に

この章では、システム装置を導入する前に知っておいていただきたい設置環境や制限事項などについて説明します。

1.1 納入時の確認	2
1.2 設置環境	4
1.3 制限事項	5
1.4 付属ソフトウェアについて	7
1.5 セットアップの流れ	9

1.1 納入時の確認

システム装置が納入されたときにご確認いただきたい内容について説明します。

1.1.1 梱包品の確認

梱包を解いたら、『同梱品チェックリスト』ですべての添付品がそろっていることと、各部品に損傷がないことをご確認ください。不足している部品があったり、何か問題があるときは日立コールセンタにお問い合わせください。→「付録 A.4 欠品・初期不良・故障について」P.62

また、添付される紙マニュアルや添付シートは、その記載内容についてご確認ください。

1.1.2 システム装置のモデルについて

お買い求めいただいたシステム装置のモデルは、システム装置に貼られているラベルの形名（TYPE）記載や、ご購入時にご指定いただいたセット形名で見分けることができます。

GQx110AM-UxAxxxx（x は任意の英数字）

■ [前から 7 桁目]：モデル区分

A：RS110 AM モデル（2.5 型 HDD）

B：RS110 BM モデル（3.5 型 HDD）

C：RS110 CM モデル（3.5 型 HDD）

■ [後から 7 桁目]：保証区分

U：標準保証モデル（1 年無償保証）

その他：保証サービス アップグレードモデル

おまかせ安心モデル / おまかせ安心ロングライフモデル / ロングライフサポートモデル /

預けて安心ロングライフモデル

詳しくは添付される「保証書」や『おまかせ安心サポート&サービスのご案内』をご参照ください。

■ [後から 5 桁目]：RAID/ ディスク区分

A：SAS/SATA RAID5 モデル

B：SAS/SATA RAID5 モデル、RAID 追加機能あり

C：SAS/SATA RAID5/ キャッシュバックアップ付モデル

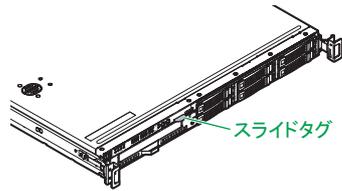
D：SAS/SATA RAID5/ キャッシュバックアップ付モデル、RAID 追加機能あり

N：SATA ディスクモデル（Non RAID）

S：SATA RAID1 モデル（オンボード RAID）

…
補足

システム装置の形名（TYPE）が記載されているラベルは、システム装置前面のスライドタグに貼り付けられています。ラベルを確認するときはスライドタグを引き出してください。



▶ RAID 追加機能について

ご購入時に「RAID 追加機能あり」モデルと、次のソフトウェア形名をご指定いただくことで、標準搭載されるディスクアレイコントローラボードで RAID 追加機能を使用することができます。

- QQS-VSS7B3H0EX : MegaRAID Recovery 機能
- QQS-VSS7B3K0EX : MegaRAID CacheCade 機能

RAID 追加機能の詳細は『ユーザーズガイド』CD-ROM に格納される『Hitachi Server Navigator ユーザーズガイド RAID 管理機能』をご参照ください。

…
補足

- RAID 追加機能は RS110 AM/BM モデルのみサポートしております。また、モデルやハードウェア構成により、使用できる機能が異なります。
- 外付けのエントリーディスクアレイ装置接続用の増設ディスクアレイコントローラボードにおいて、RAID 追加機能をお使いになる場合は、ご購入時に対応形名をご指定いただく必要があります。
→『ユーザーズガイド ～オプションデバイス編～』

1.2 設置環境

ここでは、システム装置を設置する環境について説明します。

項目	許容範囲
温度	10～35℃ [非動作時：0～40℃] * ロングライフサポートモデル、おまかせ安心ロングライフモデル、 預けて安心ロングライフモデル：10～28℃ [非動作時：0～40℃]
相対湿度	20～80% [非動作時：10～90%] (結露のないこと)
湿球温度	最大 27℃
温度上昇勾配	最大 10℃/時
設置スペース	

*1: 地震対策によりラックキャビネットを直接床固定する場合は、800mm 必要です。

*2: 同時に搭載されるシステム装置により、1000mm 必要となることがあります。

次のような場所には設置しないでください。

- 屋外など環境が安定しない場所
- 水を使用する場所の近く
- 直射日光の当たる場所
- 温湿度変化の激しい場所
- 電氣的ノイズを発生する機器の近く（モーターの近くなど）
- 強磁界を発生する機器の近く
- ごみ、ほこりの多い場所
- 傾いて水平にならない場所
- 振動の多い場所
- 結露の発生する場所
- 揮発性の液体の近く
- 腐食性ガス（亜硫酸ガス、硫化水素、塩素ガス、アンモニアなど）や塩分を多量に含む空気が発生する場所
- 周囲が密閉された棚や箱の中などの、通気が妨げられる場所

…
補足

- 温度・湿度が 25℃・50% の環境でお使いいただくことをお勧めします。
- ロングライフサポートモデル/おまかせ安心ロングライフモデル/預けて安心ロングライフモデルは、データセンターなどの機器専用ルームに設置して使用されることを前提としているため、温度条件がその他のモデルと異なります。

1.3 制限事項

ここではシステム装置や周辺機器の使用環境、使用方法における制限を説明します。

「装置の損害を防ぐための注意」P.xi もあわせてご参照ください。

1.3.1 システム装置・周辺機器の使用環境

- システム装置は純正品のラックマウントキットを使用し、日立製ラックキャビネットに収納してください。システム装置単体ではご使用にならないでください。
- 暑い場所や寒い場所では、しばらく空調などを使用し室温が安定してからお使いください。
- 直射日光の当たる場所や、ストーブなど発熱する器具の近くでは使用しないでください。
- ほこりが極端に多い場所では、使用しないでください。
- 極端に高温、低温の場所、または温度変化が激しい場所では使用しないでください。また、湿度が極端に高い場所では、使用しないでください。
- システム装置を使用する場所の近くで落雷が発生したり、電源の供給状態が悪い場合、使用中に瞬時停電や電圧低下が発生し、突然ディスプレイの表示が消えることがあります。このときは、一度システム装置の電源を切って起動しなおしてください。

1.3.2 システム装置・周辺機器の取り扱い

- システム起動中や使用中に、POWER ランプスイッチを OFF にすると次回から立ち上がらないことがあります。この場合はお買い求め先にご連絡いただくか保守員をお呼びください。
- ほかのエレクトロニクス機器に隣接して設置した場合、お互いに悪影響を及ぼすことがあります。特に近くにテレビやラジオなどがある場合、雑音が入ることがあります。その場合は次のようにしてください。
 - ◆ テレビやラジオなどからできるだけ離す
 - ◆ テレビやラジオなどのアンテナの向きを変える
 - ◆ コンセントを別にする
- マウスは耐外来ノイズ性能が劣ります。マウスが誤動作する場合は、システム装置およびその周辺機器の電源を同一のノイズフィルター付き OA タップから取ることをお勧めします。
- マウスの光センサー部に異物などが入ったときは、取り除いてください。異物が入るとマウスカーソルがなめらかに動かなくなります。
- システム装置の電源を切ってから入れるまでは、10 秒以上間隔を空けてください。またシステム装置への AC 供給を遮断（配電盤のブレーカ断や UPS のスケジュール機能による AC 出力 OFF など）してから再投入するまでは、30 秒以上間隔を空けてください。それぞれ必要時間を経過せずに行った場合、システム装置が立ち上がらないことがあります。
なお、電源を切る方法については、「4.1.2 電源を切る」P.48 に記載された手順にしたがってください。
- じゅうたんのある部屋でシステム装置を使用したり、システム装置の使用中にひざ掛けなどを使用すると、それらの材質によっては静電気が発生し、システム装置および周辺機器に悪影響を及ぼす場合があります。静電気の発生しにくい材質のものをお使いください。

- 工場出荷時の梱包材の再利用は 1 回のみ可能です。2 回以上再利用しないでください。
- 移動の際は周囲にぶつからないようにしてください。
- システム装置および内蔵デバイスは、定期的なお手入れが必要となります。『ユーザーズガイド ～導入編～』を参照し、お手入れを行ってください。
- システム起動中、キーボードリセット (Ctrl + Alt + Delete) を実行しないでください。システムエラーとなります。
- 本システム装置の騒音値は 50dB 以下です。
専用室への設置をお勧めします。設置環境や設置場所により、騒音が大きいと感じられることがありますので、一般事務室に設置する場合には、環境や場所に十分ご注意ください。導入してください。
機器の発生騒音は ISO7779 準拠の測定条件（環境温度条件は 25℃以下／測定位置は機器の表面から前方 100cm および高さ 150cm）による数値で表しています。
なお、本装置においては、装置内部温度によってファンの回転数制御を行っているため、高温環境下で最大負荷を継続した場合や、ファンが 1 つ故障した場合には本基準値を超えることがあります。また、電源投入時およびリブート時にもファン回転数が一時的に最大になるため、本基準値を超えることがあります。
- USB 機器をシステム装置に接続した場合、コネクタの接触不良などにより、OS から認識されない場合があります。
認識されない場合は、一度システム装置から取り外し、再度取り付けてください。
- ネットワークインタフェースコネクタをネットワーク機器（スイッチング HUB など）へ接続せず、直接ほかのシステム装置のネットワークインタフェースコネクタへ接続しないでください。
通信できないおそれがあります。

1.3.3 コンセントについて

- システム装置が必要とするコンセントプラグおよびコンセント仕様は次のとおりです。仕様を満たすものをお使いください。

電源仕様	コンセント形式・容量	形状	
		プラグ	コンセント
AC100V ± 10V 50Hz/60Hz ± 1Hz	接地型 2 極差込コンセント 15A-125V	 (JIS-C-8303 *1)	 (JIS-C-8303 *2)  (IEC60083 A5-15)

*1: NEMA5-15P 相当です。

*2: NEMA5-15R 相当です。

- 電源設備側コンセントは、電気用品安全法取得のコンセントをお使いください。
- コンセントは活性導線 (L:Line)、接地導線 (N:Neutral)、接地 (G:Ground) からなります。お使いになる前に、接地導線と接地が同電位であることをご確認ください。

1.4 付属ソフトウェアについて

ここではシステム装置に付属しているソフトウェアを説明します。これらのソフトウェアはインストールしてお使いください。

各ソフトウェアのサポート OS については、それぞれのマニュアルをご参照ください。



システム装置は、使用中にエラーが発生してもブザーを鳴らす機能を持ちません。ハードウェアエラー発生時は、システム装置前面の ERROR ランプによりエラーを通知しますが、システム装置の近くにオペレーターが居ない運用形態においては、通知を見逃すおそれがあります。

このため「JP1/ServerConductor」と「Hitachi RAID Navigator」(RS110 AM/BM モデルおよび、CM モデル [SATA RAID1 タイプ (オンボード RAID)] のみ) を漏れなくインストールしてください。

また、「Log Monitor」と「IT Report Utility」/「システム情報採取ツール」も、障害発生時の復旧時間短縮のために漏れなくインストールしてください。

1.4.1 Hitachi Server Navigator

「Hitachi Server Navigator」は、OS のインストールから状態監視、BIOS やファームウェアのアップデートなど、サーバの導入、運用、メンテナンスをトータルにサポートする総合管理ツールです。主な機能は次のとおりです。

- 「HA8000 ホームページ」の「ダウンロード」ページより、最新版のファームウェアおよびドライバの有無を確認し、ダウンロードを実施します。
- ダウンロードした最新版のファームウェアおよびドライバを、システム装置へ適用しアップデートします。
- Windows OS のインストールをサポートします。
- 容易にディスクアレイを構築できる RAID 管理ツール「Hitachi RAID Navigator」をサポートしています。
- システム装置に障害が発生した場合に自動解析を行う「Log Monitor (ハードウェア保守エージェント)」をサポートしています。

上記の機能を使用する場合は、「Hitachi Server Navigator」をインストールする必要があります。

使いかたの詳細は『ユーザズガイド』CD-ROM に格納される『Hitachi Server Navigator ユーザズガイド』をご参照ください。

1.4.2 JP1/ServerConductor

「JP1/ServerConductor」は、システム装置の資産管理、障害管理を行うために必要なソフトウェアです。インストールすることで、システム装置を効率よく管理でき、また障害発生時にも素早く対処できます。

使いかたの詳細は『JP1/ServerConductor Blade Server Manager』CD-ROM に格納される『JP1/ServerConductor/Blade Server Manager 系 設計・構築ガイド』および『JP1/ServerConductor/Blade Server Manager 系 運用ガイド』をご参照ください。

1.4.3 Hitachi RAID Navigator

RAID 管理ツール「Hitachi RAID Navigator」はディスクアレイを監視するツールです。

RAID 管理ツールはインストールを行わないとハードディスク障害を検知できず 2 重障害を引き起こしたり、障害発生時の解析に支障をきたします。

使いかたの詳細は『ユーザーズガイド』CD-ROM に格納される『Hitachi Server Navigator ユーザーズガイド RAID 管理機能』をご参照ください。

1.4.4 Log Monitor (ハードウェア保守エージェント)

システム装置の保守に必要なツールです。システム装置に障害が発生した場合、障害内容の自動解析を行います。これにより、障害内容の特定が容易となり、システム復旧時間の短縮に役立ちます。

使いかたの詳細は『ユーザーズガイド』CD-ROM に格納される『Hitachi Server Navigator ユーザーズガイド Log Monitor 機能』をご参照ください。

...

補足

「ハードウェア保守エージェント」は「Log Monitor」に改称しました。

1.4.5 IT Report Utility/ システム情報採取ツール

システムの構成確認に必要な情報、および障害の一次切り分けや調査／解析に必要な情報を、効率的に採取するためのツールです。

使いかたの詳細は『ユーザーズガイド』CD-ROM に格納される取扱説明書をご参照ください。

...

補足

「システム情報採取ツール」は、バージョン 02-00 より「IT Report Utility」に改称しました。バージョン 02-00 よりも前のものは「システム情報採取ツール」の名称のままです。

1.5 セットアップの流れ

ここではセットアップの注意事項と手順について説明します。

1.5.1 注意事項

- セットアップを行う前に、必ず「安全にお使いいただくために」P.viii をよくお読みいただき、安全には十分ご注意ください。
- 本マニュアル以外にシステム装置や内蔵オプションに添付されるマニュアルもお読みいただき、手順や方法を理解してから作業を行ってください。
- 本章で説明する以外にほかのマニュアルで特別な指示がある場合は、その指示にしたがってセットアップを行ってください。
- セットアップの途中で何らかのトラブルが発生した場合は、お買い求め先にご連絡いただくか保守員をお呼びください。

1.5.2 セットアップ手順

セットアップは次に示す手順で、参照先の内容にしたがって行ってください。

(1) プレインストール / 代行インストールサービスの場合

システム装置の設置	環境条件にしたがい、システム装置を設置します。 ■ 「3.1 システム装置の設置」P.28
↓	
システム装置の接続	セットアップに必要な装置をシステム装置に接続します。 ■ 「3.2 システム装置の接続」P.38 ■ 外付けオプション添付マニュアル
↓	
電源を入れる	システム装置の電源を入れます。 ■ 「4.1.1 電源を入れる」P.46
↓	
プレインストールモデル / インストール代行サービスモデルのセットアップ	システム装置にプレインストールもしくは代行インストールされている OS のセットアップを行います。 ■ 『ユーザーズガイド ～ Windows セットアップ編～』 ■ 『ユーザーズガイド』CD-ROM 収録マニュアル ■ インストールメディア添付マニュアル (Linux/VMware)
↓	
付属ソフトウェアのセットアップ	「JP1/ServerConductor」など、システム装置の運用に必要なソフトウェアをインストールします。 ■ 『ユーザーズガイド』CD-ROM 収録マニュアル ■ 『JP1/ServerConductor Blade Server Manager』CD-ROM 収録マニュアル
↓	

オプションデバイスの増設・接続



オプションデバイスのドライバ・ユーティリティのセットアップ

オプションデバイスをシステム装置に増設・接続します。

- 『ユーザーズガイド ～オプションデバイス編～』
- 『ユーザーズガイド』 CD-ROM 収録マニュアル
- 外付けオプション添付マニュアル

オプションデバイスのドライバやユーティリティをインストールします。

- 『ユーザーズガイド』 CD-ROM 収録マニュアル
- 外付けオプション添付マニュアル

(2) OS 新規 / 再セットアップの場合

システム装置の設置



環境条件にしたがい、システム装置を設置します。

- 「3.1 システム装置の設置」 P.28

オプションデバイスの増設・接続



オプションデバイスをシステム装置に増設・接続します。

- 『ユーザーズガイド ～オプションデバイス編～』
- 『ユーザーズガイド』 CD-ROM 収録マニュアル
- 外付けオプション添付マニュアル

システム装置の接続



セットアップに必要な装置をシステム装置に接続します。

- 「3.2 システム装置の接続」 P.38
- 外付けオプション添付マニュアル

電源を入れる



システム装置の電源を入れます。

- 「4.1.1 電源を入れる」 P.46

BIOS の設定



使用するシステム装置の機能に合わせ、システム BIOS の設定を行います。

また、ディスクアレイの新規構築や構成・設定変更を行う場合、RAID BIOS から設定を行います。

- 『ユーザーズガイド ～ BIOS 編～』

OS のセットアップ



システム装置に OS をインストールします。

- 『ユーザーズガイド ～ Windows セットアップ編～』
- 『Hitachi Server Navigator OS セットアップガイド』
- 『ユーザーズガイド』 CD-ROM 収録マニュアル※
- インストールメディア添付マニュアル (Linux、VMware)

※ご使用になる OS に合わせてご参照ください。

付属ソフトウェアのセットアップ



「JP1/ServerConductor」など、システム装置の運用に必要なソフトウェアをインストールします。

- 『ユーザーズガイド』 CD-ROM 収録マニュアル
- 『JP1/ServerConductor Blade Server Manager』 CD-ROM 収録マニュアル

オプションデバイスのドライバ・ユーティリティのセットアップ

オプションデバイスのドライバやユーティリティをインストールします。

- 『ユーザーズガイド』 CD-ROM 収録マニュアル
- 外付けオプション添付マニュアル

2

システム装置の基礎知識

この章では、システム装置の各部の名称と基本的な使いかたについて説明します。

2.1 システム装置の特長.....	12
2.2 システム装置各部の名称と機能	13
2.3 内蔵 DVD ドライブの使いかた	22

2.1 システム装置の特長

ここでは、システム装置の特長について説明します。

HA8000/RS110 xM

多数のサーバ導入や、限られたラックスペースへの導入に適した 1U サイズの薄型ラックサーバ。

=====

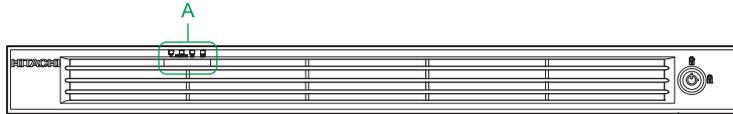
- インテル Xeon プロセッサ E3-1200v3 製品ファミリー サポート
- おまかせ安心モデル 3 年 /4 年 /5 年対応
- おまかせ安心ロングライフモデル 6 年 /7 年対応
- 預けて安心ロングライフモデル対応
- 動的パワーキャッピング機能 サポート
- 2.5 型 SAS ハードディスク 6 台搭載可能
- 3.5 型 SATA ハードディスク 4 台搭載可能
- RAID キャッシュバックアップ機能付モデルをラインナップ
- SSD (Solid State Drive) 200GB サポート
- 80 PLUS PLATINUM 認証電源採用
- UEFI (Unified Extensible Firmware Interface) ブート サポート

2.2 システム装置各部の名称と機能

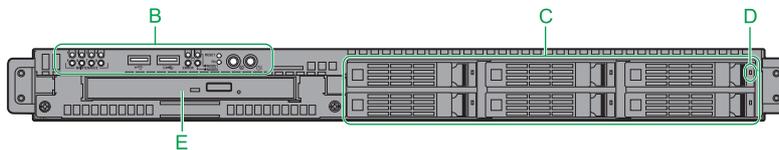
ここでは、システム装置各部の名称と機能について説明します。

2.2.1 前面

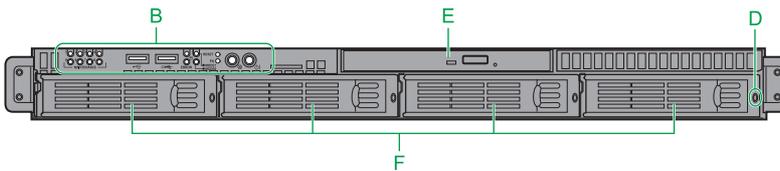
【フロントベゼル(AU7692)取り付け時】



【RS110 AMモデル】



【RS110 BM / CMモデル】



A フロントベゼルインジケータ

フロントベゼル (AU7694) にあるインジケータは、操作パネルにある各ランプの動作状態を表示します。フロントベゼルのインジケータは、左から ACCESS ランプ、ERROR ランプ、MODE1 ランプ、MODE0 ランプとなります。各ランプの動作については、「[2.2.2 操作パネル](#)」P.15 をご参照ください。

B 操作パネル

システム装置を操作するためのスイッチや、システム装置の状態を表すランプなどがあります。

→ 「[2.2.2 操作パネル](#)」P.15

C 拡張ストレージベイ (2.5型) 1～6 [RS110 AM モデルのみ]

内蔵ハードディスクを取り付けます。

→ 『ユーザーズガイド ～オプションデバイス編～』「4 内蔵デバイスを取り付ける」

内蔵ハードディスクが搭載されていない拡張ストレージベイには、ダミーキャニスタが代わりに搭載されています。

D HDD ステータスランプ

ハードディスクキャニスタに縦に並んであるレンズの上側が HDD ステータスランプです。下側は点灯しません。

点灯のしかたによって、次のように各拡張ストレージベイのハードディスクの状態を示します。

HDD ステータスランプ	動作状態
消灯	・ 未通電または未搭載 ・ 通電中（搭載時）
緑点灯	アクセス中
橙点灯	エラー発生（RS110 AM/BM モデル、および RS110 CM モデルの SATA RAID1 タイプ（オンボード RAID）のみ）
橙点滅	データリビルド中*1（RS110 AM/BM モデル、および RS110 CM モデルの SATA RAID1 タイプ（オンボード RAID）のみ）

*1: データリビルド中にハードディスクへアクセスした場合、緑点灯します。

なお、ハードディスクが搭載されないダミーキャニスタには、HDD ステータスランプはありません。

E 拡張ストレージベイ（5 型：薄型）

ご購入時に選択された内蔵 DVD-ROM ドライブまたは内蔵 DVD-RAM ドライブが標準で搭載されます。以降、両ドライブを示すときは内蔵 DVD ドライブと表記します。

→ 「2.3 内蔵 DVD ドライブの使いかた」 P.22

F 拡張ストレージベイ（3.5 型）1～4 [RS110 BM/CM モデルのみ]

内蔵ハードディスクを取り付けます。

→ 『ユーザーズガイド ～オプションデバイス編～』 「4 内蔵デバイスを取り付ける」

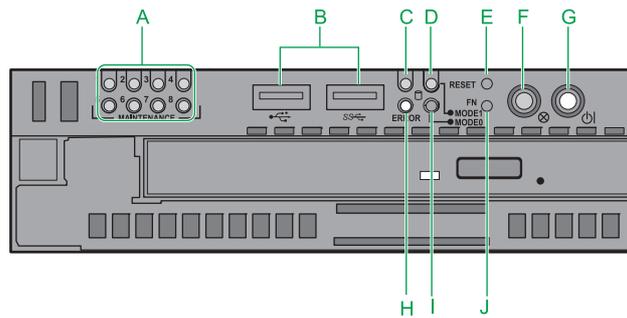
内蔵ハードディスクが搭載されていない拡張ストレージベイには、ダミーキャニスタが代わりに搭載されています。

2.2.2 操作パネル

システム装置の前面に、次のような操作パネルがあります。



イラストは RS110 AM モデルです。RS110 BM/CM モデルにおいてもスイッチ・ランプの位置は同じです。



A MAINTENANCE ランプ (緑)

システム装置の動作状態を示します。

動作状態の表示はイベントコードと POST コード、消費電力があり、SERVICE ランプスイッチにより表示を切り替え、MODE0 ランプ、MODE1 ランプおよび SERVICE ランプスイッチの消灯/点灯の組み合わせにより現在の動作状態を示します。

MODE0 ランプ、MODE1 ランプおよび SERVICE ランプスイッチの消灯/点灯状態による MAINTENANCE ランプの表示は次のとおりです。

SERVICE ランプスイッチ	MODE0 ランプの状態	MODE1 ランプの状態	MAINTENANCE ランプ表示内容
消灯	消灯	消灯	イベントコード
点灯	消灯	点灯	POST コード
消灯	点灯	点灯	消費電力

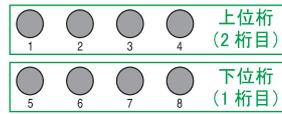
- ◆ イベントコード

システム装置の動作状態を示します。正常動作時はすべてのランプは点灯しません。エラー発生時はエラー発生箇所に対応するランプが点灯します。

MAINTENANCE ランプ	エラー発生箇所
1	CPU
2	メモリー
3	マザーボード
4	PCI
5	電源/電圧
6	ファン
7	温度
8	その他ハードウェア

- POST コード

システム BIOS の POST コードを 2 進数 4 ビットの 2 桁で示します。ランプ 1～4 が上位桁、ランプ 5～8 が下位桁で、それぞれランプ No. の小さい順に上位ビットになります。



上位ビット ← 4 3 2 1 → 下位ビット

POST (Power On Self Test) が正常に終了すると、ランプ 1、3、5、6、7 のみが点灯します (“AE” を示します)。

…
補足

システム装置の電源が切れた場合、MAINTENANCE ランプは表示していた POST コードを保持します。また、エラー発生時はイベントコードを保持します。再度電源を入れるとクリアされます。

- 消費電力

現在のシステム装置の消費電力 (W) の目安を示します。
MAINTENANCE ランプの表示数により、消費電力を判別します。

MAINTENANCE ランプ	消費電力
すべて消灯	200W 未満
1 のみ点灯	200W 以上 250W 未満
1～2 が点灯	250W 以上 300W 未満
1～3 が点灯	300W 以上 350W 未満
1～4 が点灯	350W 以上 400W 未満
1～5 が点灯	400W 以上 450W 未満
1～6 が点灯	450W 以上 500W 未満
1～7 が点灯	500W 以上 550W 未満
1～8 が点灯	550W 以上

…
補足

表示される消費電力は正確な値ではありません。あくまでも目安としてください。

B USB コネクタ (フロント) < > < >

オプションの USB メモリー (FK802G/FK804G) などの USB 対応機器を使用するときに接続します。USB インタフェースの仕様は、左側が USB2.0 (黒いコネクタ)、右側が USB3.0 (青いコネクタ) です。

通知

オプションの USB メモリー (FK802G/FK804G) をシステム装置前面の USB コネクタ (フロント) に接続したままの状態ではラックキャビネットのフロントドアを閉めないでください。フロントドアと干渉して、故障の原因となるおそれがあります。

!
制限

サポートしていない USB 機器を接続した場合、システム装置の動作に影響を及ぼすおそれがあります。

…
補足

USB3.0 インタフェースは工場出荷時有効になっていないため、USB2.0 で動作します。USB3.0 を有効にする場合、セットアップメニューの設定を変更する必要があります。詳細は『ユーザーズガイド ~ BIOS 編~』をご参照ください。
また、Windows Server 2008 R2 では USB3.0 で動作させるためにドライバが必要となります。プレインストールモデルおよび「Hitachi Server Navigator」DVD を使用してインストールした場合、このドライバが自動的にインストールされます。

C ACCESS ランプ (緑) <📀>

ハードディスクにアクセスしているときに点灯します。

また、RS110 AM/BM モデル、および RS110 CM モデルの SATA RAID1 タイプ (オンボード RAID) では、ハードディスクに障害が発生した場合に消灯、リビルド時に点滅します。

D MODE1 ランプ (緑) <MODE1>

MAINTENANCE ランプの表示と合わせて機能します。SERVICE ランプスイッチおよび MODE0 ランプとの消灯 / 点灯の組み合わせにより MAINTENANCE ランプの表示内容 (イベントコード / POST コード / 消費電力) を示します。

E RESET スイッチ

システム装置をハード的にリセット (再起動) するときに押します。
押す必要があるときはボールペンなどで押してください。

!
制限

RESET スイッチは必要がある場合のみ押してください。通常の運用時では押さないでください。

F SERVICE ランプスイッチ (青) <⊗>

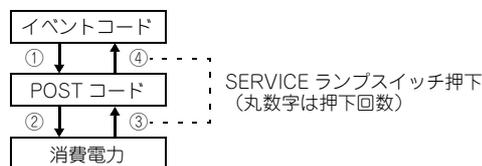
システム装置前面、背面の SERVICE ランプスイッチを押すと点灯します。

SERVICE ランプスイッチは目印などに使用するためや、MAINTENANCE ランプの表示切り替えのために点灯させます。システム動作には影響しません。

…
補足

- SERVICE ランプスイッチを押す場合は、誤って POWER ランプスイッチを押さないようご注意ください。
- SERVICE ランプスイッチの押下により、MAINTENANCE ランプの表示は次のとおり切り替わります。

MAINTENANCE ランプ表示



- 電源コードを接続してシステム装置に AC 供給すると、BMC (Baseboard Management Controller) が起動し、システム装置前面・背面にある SERVICE ランプスイッチが 30 秒から 90 秒ほど点滅します。この間、MAINTENANCE ランプは表示されません。また、SERVICE ランプ点滅中に POWER ランプスイッチを押しても、システム装置の電源は入りますが、点滅が終わるまで起動しません。
- BMC ファームウェアに異常が発生した場合、BMC の機能により BMC が再起動されることがあります。BMC が再起動されると、システム装置前面・背面にある SERVICE ランプスイッチが 30 秒から 90 秒ほど点滅します。この間、システム装置の操作を控えてください。

G POWER ランプスイッチ (緑) <🔌▶>

システム装置の電源を入・切するときに押します。POWER ランプスイッチを押してシステム装置の電源を投入すると点灯します。なお、POWER ランプスイッチを 4 秒以上押し続けると、強制的に電源を切ることができます。

H ERROR ランプ (橙)

ハードディスクエラー、ファンエラー、電源エラーおよびその他のハードウェアエラーが発生した場合に点灯します。

…
補足

マネジメントインタフェースが LAN に接続されていない状態で FUNCTION スイッチを 10 秒以上押し続けると、マネジメントインタフェース設定が保守モードに設定され、ERROR ランプが点滅します。この場合、FUNCTION スイッチをボールペンなどで 10 秒以上押し続け、保守モードを解除してください。

I MODE0 ランプ (緑) <MODE0>

MAINTENANCE ランプの表示と合わせて機能します。SERVICE ランプスイッチおよび MODE1 ランプとの消灯 / 点灯の組み合わせにより MAINTENANCE ランプの表示内容(イベントコード / POST コード / 消費電力) を示します。

J FUNCTION スイッチ

通常の運用では使用しません。スイッチは押さないでください。

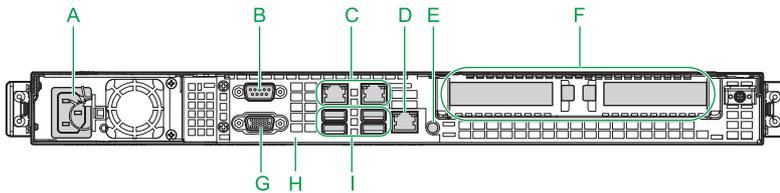
!
制限

FUNCTION スイッチと SERVICE ランプスイッチを同時に押すと NMI が発行されます。メモリダンプ取得時など NMI を意図的に発行する場合のみ押ししてください。

…
補足

マネジメントインタフェースが LAN に接続されていない状態で FUNCTION スイッチを 10 秒以上押し続けると、マネジメントインタフェース設定が保守モードに設定され、ERROR ランプが点滅します。この場合、FUNCTION スイッチをボールペンなどで 10 秒以上押し続け、保守モードを解除してください。

2.2.3 背面



A 電源コネクタ

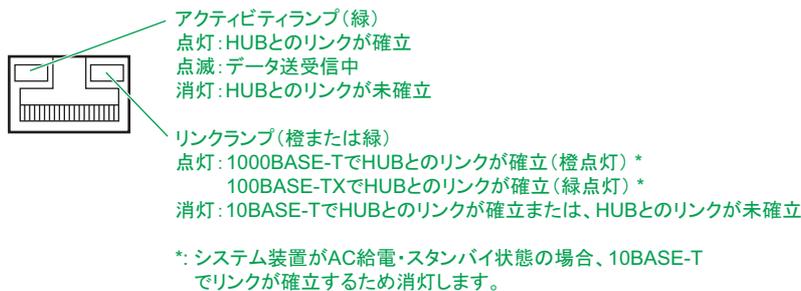
電源コードを接続します。

B シリアルインタフェースコネクタ (COM0) <[OIO]>

モデムなどシリアルインタフェースを使用する機器を接続します。

C ネットワークインタフェースコネクタ <[E] [E]>

LAN ケーブルを接続します。左から順にネットワークインタフェースコネクタ 1、2 となります。コネクタにあるステータスランプは次のとおりです。



制限

ネットワークインタフェースコネクタへのLANケーブル接続は次のとおり取り扱ってください。取り扱いを誤ると、ネットワークインタフェースコネクタが破損したり、LANケーブルが破損・断線したりするおそれがあります。

- ・ LAN ケーブルは RJ45/ISO8877 準拠のコネクタを使用したものをお使いください。
- ・ LAN ケーブルはネットワークインタフェースコネクタに負荷がかからないようにルーティングしてください。
- ・ LAN ケーブルを抜くときは、ケーブル側コネクタのフックを押しながらまっすぐ抜いてください。



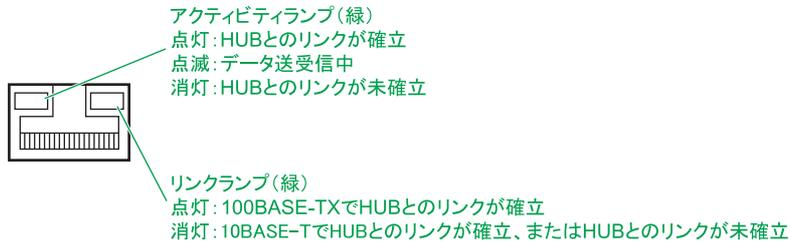
補足

OS 上で表示されるデバイス No. は、ネットワークインタフェースコネクタの順序とは異なる場合があります。

D マネジメントインタフェースコネクタ < >

システム装置のリモートマネジメント機能を使用する場合に、管理用のシステムコンソール端末と LAN ケーブルで接続します。→『ユーザーズガイド ～リモートマネジメント編～』

コネクタにあるステータスランプは次のとおりです。



制限

マネジメントインタフェースコネクタとネットワークインタフェースコネクタ 1、2 を LAN ケーブルで直結しないでください。正常に動作しません。



補足

- マネジメントインタフェースコネクタに接続する LAN ケーブルは、シールド付きケーブル (STP) をお勧めします。
- マネジメントインタフェースは 100Mbps (100BASE-TX) 環境でお使いください。また、マネジメントインタフェースのリンク速度とデュプレックスはオートネゴシエーションに設定されています。マネジメントインタフェースに接続するシステムコンソール用端末やスイッチング HUB の LAN ポートもオートネゴシエーションに設定してお使いください。
- マネジメントインタフェースのリンク速度が 10Mbps (10BASE-T: リンク確立時 リンクランプが消灯) となる環境では通信に不具合が発生する場合があります。100Mbps でリンクするよう、マネジメントインタフェースコネクタに接続するネットワーク構成を見直してください。
また、このときに通信が不安定になった場合、システム装置の電源を切り、システム装置の電源コードを抜くなどして AC 供給を遮断し、30 秒以上経過してから再度 AC 供給をして電源を入れてください。

E SERVICE ランプスイッチ (青) < >

システム装置前面、背面の SERVICE ランプスイッチを押すと点灯します。

SERVICE ランプスイッチは目印などに使用するためや、MAINTENANCE ランプの表示切り替えのために点灯させます。システム動作には影響しません。



補足

- 電源コードを接続してシステム装置に AC 供給すると、BMC (Baseboard Management Controller) が起動し、システム装置前面・背面にある SERVICE ランプスイッチが 30 秒から 90 秒ほど点滅します。この間、MAINTENANCE ランプは表示されません。また、SERVICE ランプ点滅中に POWER ランプスイッチを押しても、システム装置の電源は入りますが、点滅が終わるまで起動しません。
- BMC ファームウェアに異常が発生した場合、BMC の機能により BMC が再起動されることがあります。BMC が再起動されると、システム装置前面・背面にある SERVICE ランプスイッチが 30 秒から 90 秒ほど点滅します。この間、システム装置の操作を控えてください。

F 拡張スロット (PCI)

PCI Express 仕様のボードを取り付けることができます。スロット番号は左から順に 1、2 となります。
→『ユーザーズガイド ~オプションデバイス編~』「5 拡張ボードを取り付ける」

拡張スロット (PCI) の仕様は次のとおりです。

- スロット 1 : PCI Express 3.0 x16 (16 レーン) /Low Profile
- スロット 2 : PCI Express 2.0 x4 (4 レーン) /Low Profile

…
補足

- RS110 AM/BM モデルは拡張スロット (PCI) 2 にディスクアレイコントローラボードが標準搭載されます。
- 拡張スロット (PCI) 2 のスロット形状は PCI Express x8 ですが、PCI Express x4 で動作します。

G ディスプレイインタフェースコネクタ <□>

ディスプレイを接続します。

H POWER ランプ

点灯のしかたによって、次のようにシステム装置の電源の状態を示します。

POWER ランプ	動作状態
消灯	AC 給電なし (電源コード未接続など)
橙点灯	AC 給電・スタンバイ状態 (電源コード接続・POWER ランプスイッチ OFF)
緑点灯	パワーオン・正常動作中 (POWER ランプスイッチ ON)

I USB コネクタ (リア) <⇄><SS⇄>

キーボード、マウスを接続します。また、USB 対応機器を接続します。USB インタフェースの仕様は、左側が USB2.0 (黒いコネクタ)、右側が USB3.0 (青いコネクタ) です。

通知

キーボード、マウスはサポートしているオプション品を使用してください。その他のものを使用した場合、正常に動作しなかったり故障したりすることがあります。

!
制限

サポートしていない USB 機器を接続した場合、システム装置の動作に影響を及ぼすおそれがあります。

…
補足

USB3.0 インタフェースは工場出荷時有効になっていないため、USB2.0 で動作します。USB3.0 を有効にする場合、セットアップメニューの設定を変更する必要があります。詳細は『ユーザーズガイド ~ BIOS 編~』をご参照ください。
また、Windows Server 2008 R2 では USB3.0 で動作させるためにドライバが必要となります。プレインストールモデルおよび「Hitachi Server Navigator」DVD を使用してインストールした場合、このドライバが自動的にインストールされます。

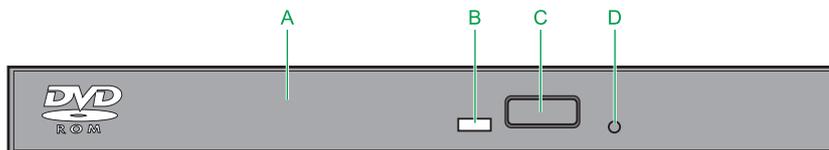
2.3 内蔵 DVD ドライブの使いかた

ここでは、システム装置に搭載される内蔵 DVD ドライブのうち内蔵 DVD-ROM ドライブ (UV5080EX) の使いかたについて、説明します。

内蔵 DVD-RAM ドライブ (UV7120EX) の使いかたについては、『ユーザーズガイド』CD-ROM に格納される『内蔵 DVD-RAM 取扱説明書』をご参照ください。

その他のオプションデバイスの使いかたについては、オプションデバイスのマニュアルをご参照ください。

2.3.1 各部の名称と機能



A トレイカバー

ディスクを載せるためのトレイの開閉口です。

B ビジーインジケータ

起動時に点灯します。またアクセス中に点滅します。

C イジェクトボタン

トレイを開けます。

…
補足

- フロントベゼル (AU7694) を搭載している場合は、イジェクトボタンを押すことができないため、フロントベゼルを取り外してください。フロントベゼルの取り外しかたは『ユーザーズガイド ~オプションデバイス編~』「1.1.2 フロントベゼルを取り外す」をご参照ください。
- 電源が入っているときしかトレイは開閉できません。またコマンドでボタンによるディスクの取り出しを禁止しているときは、イジェクトボタンでディスクを取り出すことはできません。

D 手動イジェクト穴

ドライブの故障によりディスクが取り出せなくなったときに、強制的に取り出すための穴です。電源を切り、約 15 秒待ったあと、細い棒を穴に差し込んで、棒の先が当たった位置から 8mm ほど押し、トレイが少し開きます。その後、トレイを手で引き出して CD-ROM を取り出します。

使用する棒は、直径 1.0 ~ 1.4mm、長さ 30mm 以上の丈夫なものにしてください。クリップを伸ばしたものが一般によく使われます。

2.3.2 ディスクを入れる・取り出す

ここでは、内蔵 DVD-ROM ドライブへのディスクの入れかた・取り出しかたを説明します。

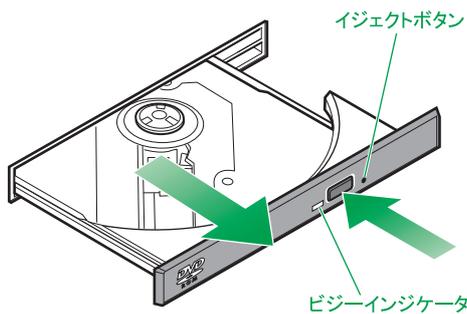
通知

次のことに注意して取り扱ってください。ドライブの故障の原因となります。

- ビジーインジケータの点灯中に電源を切らない
- トレイをむりに引き出したり押し込んだりしない
- 割れたり変形したディスクをドライブに入れない
- 異物をトレイに入れない
- 手動イジェクト穴はドライブが壊れたとき以外使用しない

(1) ディスクを入れる

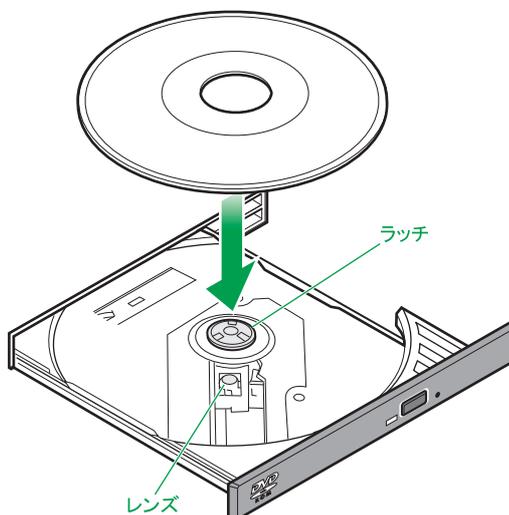
- 1 ビジーインジケータが点灯していないことを確認してイジェクトボタンを押し、トレイを出します。



- 2 ディスクの表側（ラベルが書かれている面）を上に向け、トレイにセットします。トレイにあるラッチにディスクのセンター穴をカチッと音がするまで入れます。

…
補足

レンズに触れないようご注意ください。



3 トレイを押して閉めます。



- トレイを押すときに、イジェクトボタンに触れないでください。トレイが閉まりません。また、トレイはまっすぐ押してください。斜め方向に押したりすると閉まらないことがあります。
- ディスク使用中に振動を与えないでください。データを正しく読めないことがあります。



- システム装置の電源を切るときは、ディスクを取り出してからにしてください。ディスクをドライブに入れたまま誤ってシステム装置の電源を切ったときは、再び電源を入れてシステム装置を起動してから取り出してください。
- ドライブが壊れてしまい、イジェクトボタンを押してもトレイが出ずにディスクが取り出せないときは、電源を切ったのち手動イジェクト穴に細いピンなどを差し込んで取り出してください。また、手動イジェクト穴を使うときは、ドライブの内部に異物が入らないようにしてください。

(2) ディスクを取り出す

ディスクの取り出しは、入れる場合と同じ手順で行ってください。

通知

フロントベゼルを取り付けた状態またはラックキャビネットのフロントドアが閉じている状態で、ディスクをオートイジェクトまたはリモートイジェクトしないでください。また、トレイが引き出された状態でフロントベゼルを取り付けたり、ラックキャビネットのフロントドアを閉めたりしないでください。トレイがフロントベゼルまたはフロントドアと干渉して、故障の原因となるおそれがあります。

2.3.3 ディスクについて

内蔵 DVD-ROM ドライブは、次のディスクを使用できます。使用するディスクによっては専用ソフトが必要です。



- ディスクをドライブに入れた直後は、“Not Ready” など、準備ができていないことを示すエラーメッセージが表示される場合があります。このときはビジーインジケータが消灯するまでお待ちください。
- データ書き込み可能なディスクは、ディスクの種類および書き込んだ条件などにより、データを読み込めない場合があります。



- 使用するディスクは汚れや傷、紫外線による劣化がないことを確認してください。
- 本ドライブはデータ書き込み機能を有していません。CD-R/RW、DVD-R/RW、DVD+R/RW へのデータ書き込みはできません。

- CD-DA (オーディオ CD)
- CD-ROM (mode1、mode2)
- CD-ROM XA (mode2 の form1、form2)
- CD-R/RW
- DVD-ROM
- DVD-R/RW
- DVD-Video
- DVD+R/RW

2.3.4 取り扱いについて

(1) ドライブの取り扱い

- ドライブを長くお使いいただくために温度環境は 30 °C 以下の場所での使用をお勧めします。
- 本ドライブの使用中に強い衝撃を与えないでください。
- ディスクを入れたり取り出したりするとき以外に、ドライブのトレイを開けないでください。
- メディアリードエラーが発生したときはクリーニングを行ってください。
→ 『ユーザーズガイド ~運用編~』
- 本ドライブはデータ書き込み機能を有していません。

(2) ディスクの取り扱い

- ディスクをお手入れするときは、乾いた柔らかい布でディスクの中心から外周に向けて放射状に拭いてください。このとき、ベンジン、シンナー、水、レコードクリーナー、静電気防止剤、シリコンクロスなどで拭かないでください。
- ディスクからごみや水分を取り除くのにドライヤーは使わないでください。
- ディスクは高温な場所で保管しないでください。
- ディスクを折ったり曲げたりしないでください。
- ディスクに字を書いたり傷を付けないでください。
- ディスクにラベルなどを貼らないでください。
- 小さなお子様がディスクを傷つけたりしないよう、手の届かないところに保管してください。

3

システム装置の設置・接続

この章では、システム装置の設置と周辺機器の接続について説明します。

3.1 システム装置の設置.....	28
3.2 システム装置の接続.....	38

3.1 システム装置の設置

「1.2 設置環境」P.4 を参照して設置場所の環境を確認します。ラックキャビネットの設置についてはラックキャビネットに添付の『ラックキャビネット取扱説明書』を参照してください。

⚠ 注意

- 傾いたところや狭い場所など不安定な場所には置かないでください。落ちたり倒れたりして、けがや装置の故障の原因となります。
- 装置などの重量物を移動したり持ち上げたりする場合は、2 人以上で扱ってください。腕や腰を痛める原因となります。

… 補足

- 地震などによる振動で装置の移動、転倒あるいは窓などからの飛び出しが発生し、重大な事故へと発展するおそれがあります。これを防ぐため、地震・振動対策を保守会社や専門業者にご相談いただき、実施してください。
- ねずみなどによるコンピュータシステムの被害として次のようなものがあります。これを防ぐため、ねずみ対策を専門業者にご相談いただき、実施してください。
 - ・ ケーブル類の被覆の破損断線
 - ・ 機器内部の部品の腐食、接触不良、汚損

3.1.1 システム装置のラック搭載について

ここでは、システム装置をラックキャビネットに取り付ける方法、および引き出す方法について説明します。

作業方法を知っていただくのみにとどめ、作業そのものはあくまで保守員にお任せいただくことを強くお勧めいたします。

⚠ 警告

- ラックキャビネットの 31U より上にシステム装置を取り付けたり、取り付けられている場合は、お客様自身による作業は行わず、保守員にお任せください。
取り付け不備によりシステム装置が落下し、けがをしたり装置が故障するおそれがあります。
- ラックキャビネットから装置を引き出して作業を行う場合、ラックキャビネットにフロントスタビライザーを取り付けてください。むりな力がかかるとラックキャビネットが転倒し、けがや故障の原因となります。取り付けられていない場合は保守員をお呼びください。
- 純正品以外のラックマウントキットを使用したり、ラックマウントキットを用いずにラックキャビネットに収納したりした状態では使用しないでください。システム装置の落下によるけがや装置の故障の原因となります。

⚠ 注意

システム装置をラックキャビネットに搭載するとき使用するスライドレールには、ロックなど指をはさむおそれがある部位があります。けがの原因となりますのでご注意ください。

通知

システム装置は正しく設置した状態で使用してください。縦向きに設置したり、上下を逆に設置したりしないでください。システム装置が正常に動作しなかったり、故障したりする原因となります。



制限

最も重量のある装置は、ラックキャビネットの下部に搭載してください。



補足

- システム装置を取り付けるスペースの上下いずれかに 1U 以上の空きスペースがない（上下に HA8000/RS110 システム装置が取り付けられている場合は、取り外してスペースを確保できません）場合は保守員に作業をお任せください。
- 『ラックキャビネット取扱説明書』もあわせてご参照ください。
- ラックキャビネットは、38U タイプ、42U タイプ、16U タイプがあります。
なお、38U/42U タイプと 16U タイプの作業方法は同じです。

(1) ラックキャビネットに取り付ける

システム装置をラックキャビネットに取り付ける方法を説明します。

1 インナーレールからスライドレールを取り外します。

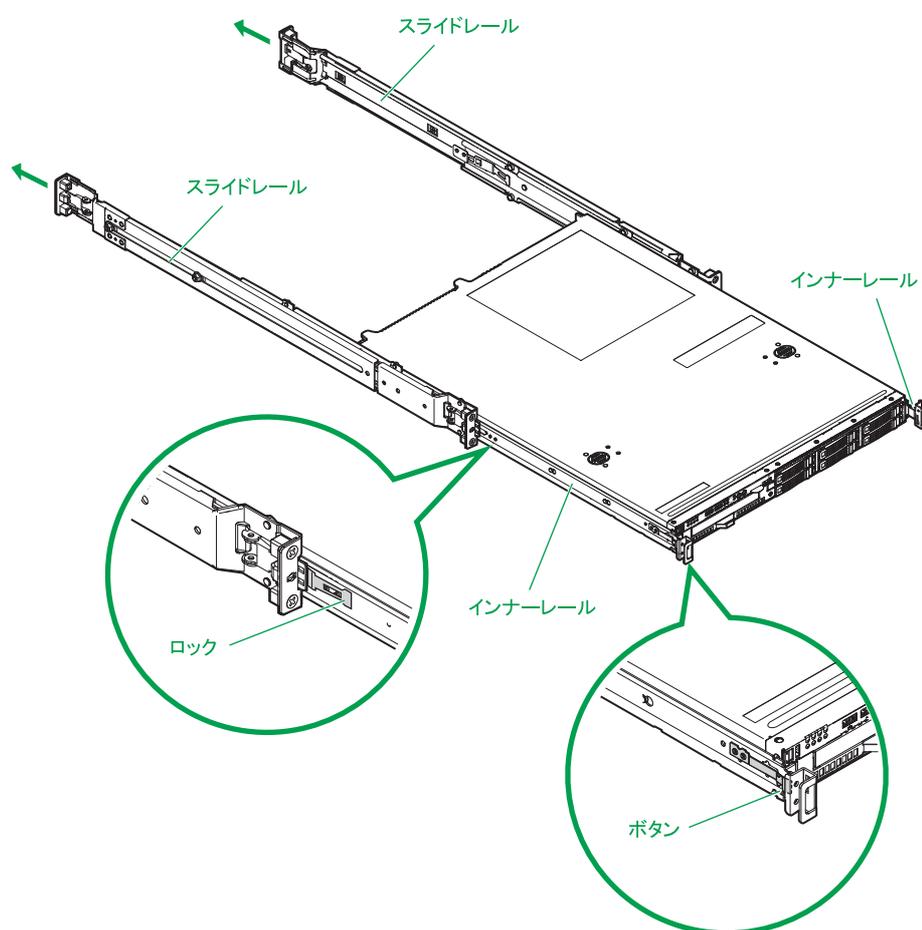
スライドレールはインナーレールのボタンを押しながら止まるまでスライドさせます。止まったら、ロック部分を押しながらさらにスライドさせて引き抜きます。



ロック部分を押ししてインナーレールを引き抜く際、スライドが固いため力を入れる必要があります。物にぶつけないよう、周囲には十分注意してください。

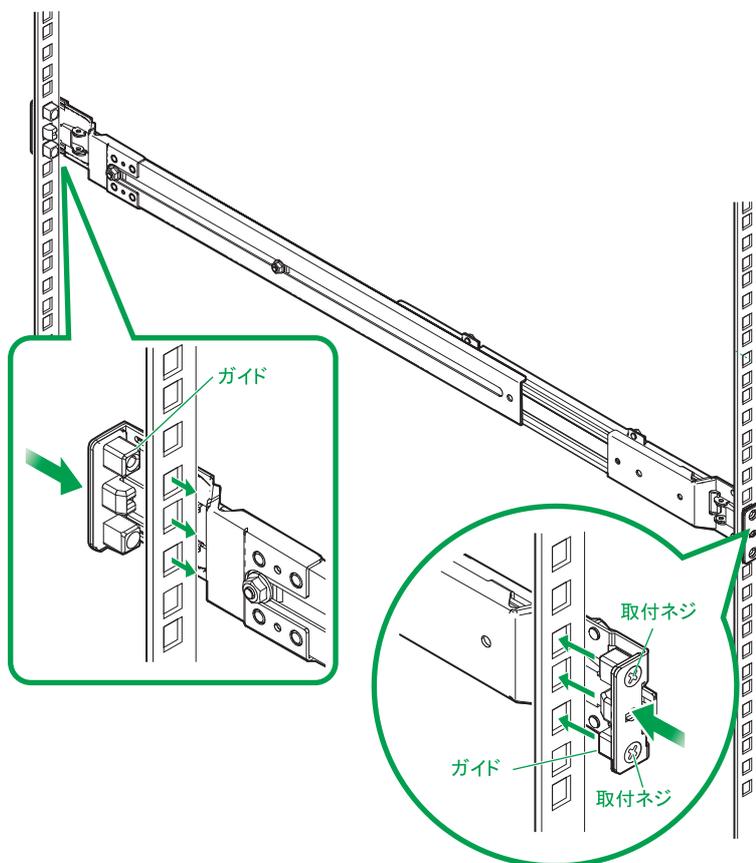


スライドレールは2本ありますが、左右の区別はありません。



2 スライドレールをラックキャビネットの左側に取り付けます。

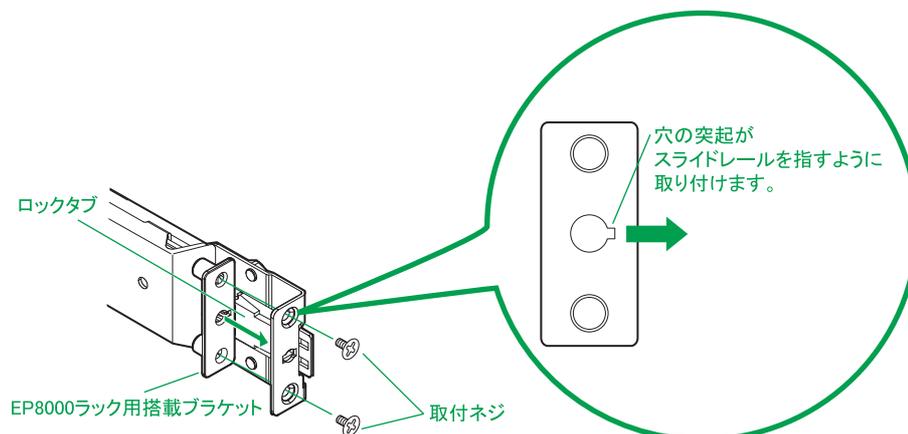
スライドレールのフロント側のガイドを、ラックキャビネット前面のガイド穴に合わせてはめ込んでから、リア側のガイドをラックキャビネット背面のガイド穴に合わせてはめ込みます。ラックキャビネットの右側にも、同様に取り付けてください。



スライドレールがラックキャビネットに正常に取り付けられていることを確認してください。確認事項は次のとおりです。

- 傾きがないこと（フロント側／リア側の取り付け位置の高さが同じであること）
- フロント側／リア側のガイド穴にガイドが確実にはめこまれていること
- スライドレールを前後にゆすって外れないこと

日立製 EP8000 ラックに搭載する場合、スライドレールのフロントおよびリアのガイドをオプションの EP8000 ラック用搭載ブラケット（AU7920）に付け替える必要があります。ガイドを固定している取付ネジ 2 本を外し、EP8000 ラック用搭載ブラケットに付け替えてください。



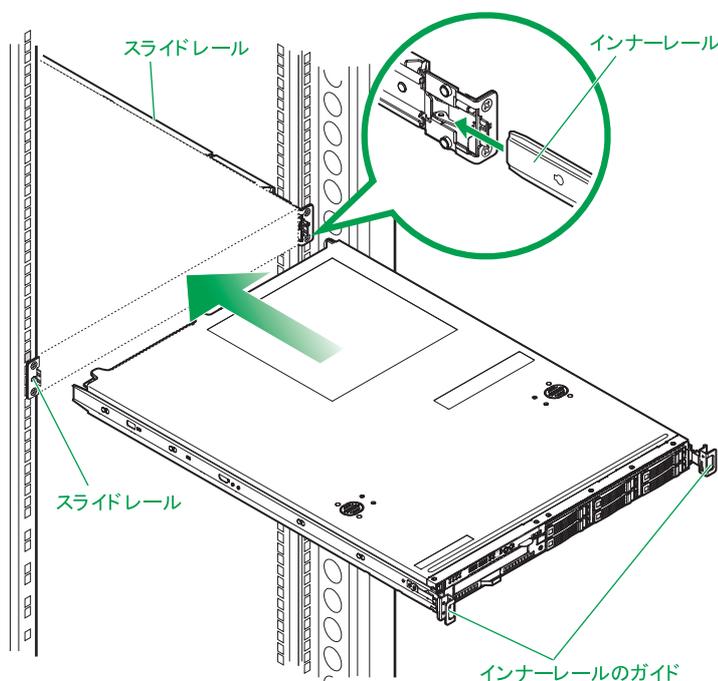
補足

ガイドを取り外すとロックタブが開きます。ロックタブを元の位置に戻してからEP8000 ラック用搭載ブラケット (AU7920) を取り付けてください。

- 3** システム装置のインナーレールをスライドレールに合わせて差し込み、止まるまで押し込みます。インナーレールは片方のスライドレールに差し込んだあとにもう一方を差し込みます。

制限

- システム装置は、両側の側面をしっかり持って差し込んでください。片側だけ持って取り付けたと、トップカバーのロックが外れる場合があります。万一、トップカバーのロックが外れた場合は、一度カバーを取り外してから再度カバーを取り付けてください。
- スライドレールにむりな力を加えないでください。変形の原因となります。
- システム装置はゆっくりと押し込んでください。また、持ち上げるように支えて押し込んでください。いきおいよくそのままの状態では押し込んだりすると、ほかの装置やラックキャビネットに干渉してシャーシの変形の原因となります。
- システム装置を押し込む際、スライドが固いため力を入れる必要があります。物にぶついたりしないよう、周囲には十分注意してください。
- システム装置をラックキャビネットに収納するときは、システム装置背面の電源ケーブルのケーブルクランプをひっかけないように注意して下さい。破損するおそれがあります。ひっかった場合は、一度ラックキャビネットから引き出しケーブルクランプを上を持ち上げてから再度押し込んでください。
- システム装置を収納する際、インナーレールのガイドを持たないようにしてください。変形の原因となります。



- 4** フロントベゼルを取り付けます。
→ 『ユーザズガイド ~オプションデバイス編~』「1.2.1 フロントベゼルを取り付ける」
- 5** システム装置にケーブルを接続します。

以上でラックキャビネットへの搭載は終了です。

(2) ラックキャビネットから取り外す

システム装置をラックキャビネットから取り外す方法を説明します。

1 フロントベゼルを取り外します。

→『ユーザーズガイド ～オプションデバイス編～』「1.1.2 フロントベゼルを取り外す」

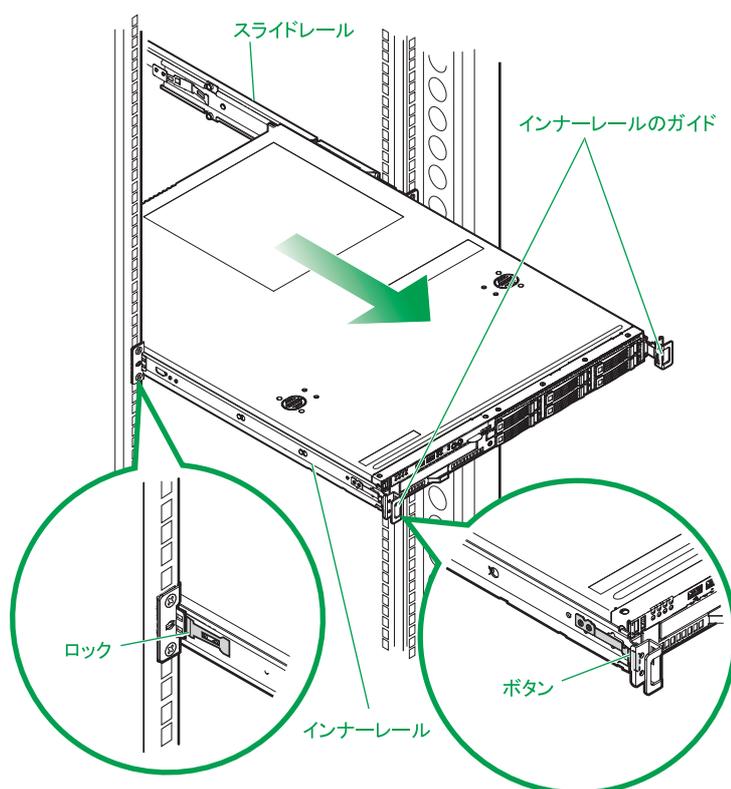
2 システム装置をラックキャビネットから取り外します。

インナーレールのボタンを押しながら止まるまで引き出します。

止まったらロック部分を押しながらさらにスライドさせて引き抜きます。

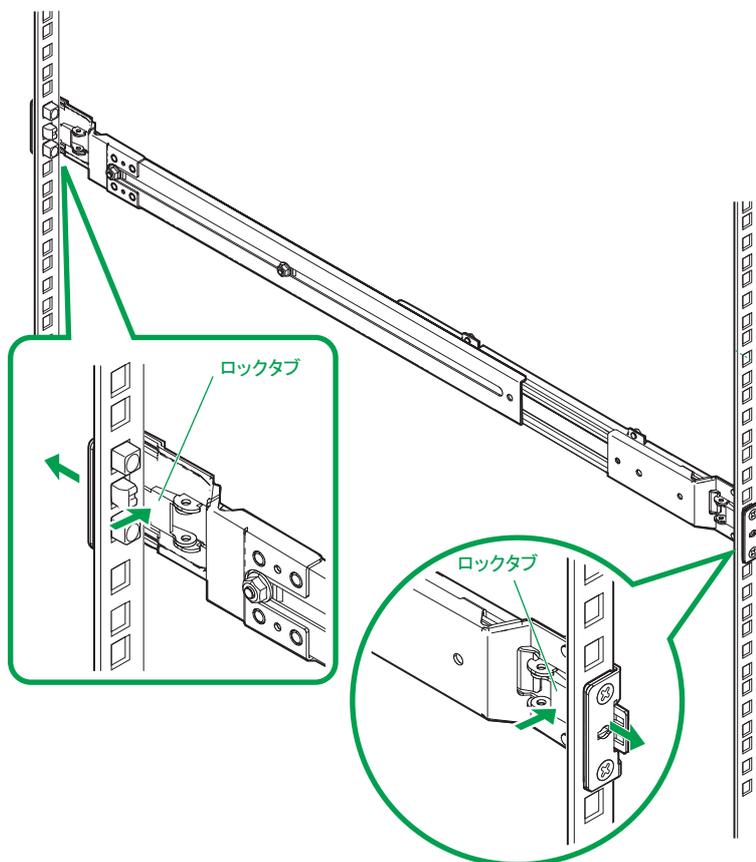


- スライドレールにむりな力を加えないでください。変形の原因となります。
- システム装置は、持ち上げるように支えて引き出してください。そのままの状態引き出したりすると、ほかの装置に干渉してシステム装置の変形の原因となります。
- システム装置を引き出す際、インナーレールのガイドを持たないようにしてください。変形の原因となります。



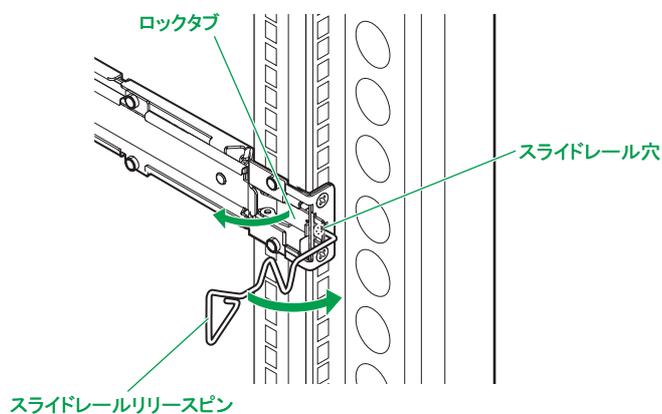
…
補足

ラックキャビネットからスライドレールを取り外す場合は、リア側のロックタブを押しながら、ラックキャビネット背面のガイド穴から取り外し、次にフロント側のロックタブを押しながらラックキャビネット前面のガイド穴から取り外します。



…
補足

ロックタブが押しづらい場合は、システム装置に添付されているスライドレールリリースピンをスライドレール穴に差し込んで、手前に引くことにより、ロックタブを押しすることができます。



(3) ラックキャビネットから引き出す

システム装置をラックキャビネットから引き出す方法を説明します。



引き出した状態で作業を行うことはできません。

- 1 システム装置に接続されているケーブルをすべて外します。
- 2 フロントベゼルを取り外します。
→『ユーザーズガイド ～オプションデバイス編～』「1.1.2 フロントベゼルを取り外す」
- 3 インナーレールのボタンを押しながら、インナーレールが止まるまでスライドさせます。
インナーレールがロックされます。

⚠ 注意

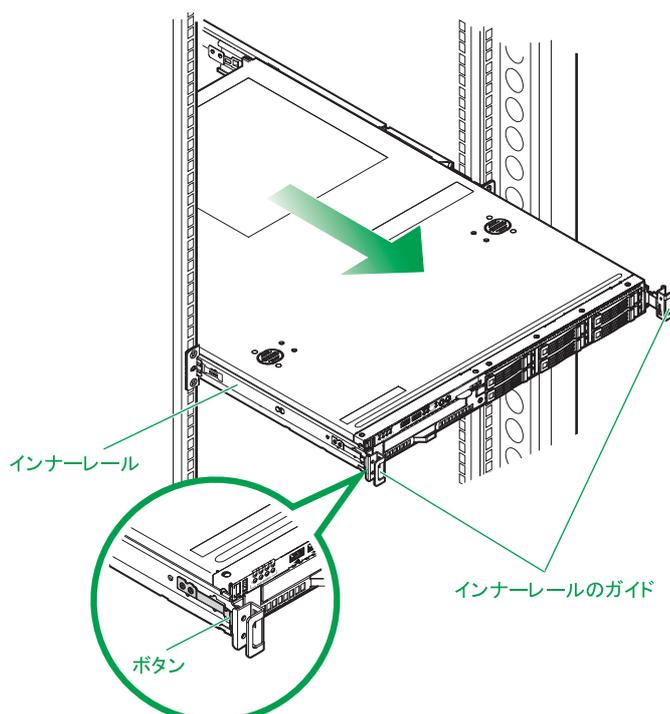
インナーレールがロックされるまで引き出してください。作業時にシステム装置が思いがけず動いて、指をはさんだりけがの原因となります。



- スライドレールにむりな力を加えないでください。変形の原因となります。
- システム装置は、持ち上げるように支えて引き出してください。そのままの状態引き出したりすると、ほかの装置に干渉してシャーシの変形の原因となります。
- システム装置を引き出す際、インナーレールのガイドを持たないようにしてください。変形の原因となります。



システム装置を取り外す場合は、インナーレールのロックを押しながらシステム装置をさらに引き出します。



以上でラックキャビネットからの引き出しは終了です。

(4) ラックキャビネットへ収納する

収納は引き出しの逆の手順で行ってください。



- スライドレールにむりな力を加えないでください。変形の原因となります。
- システム装置はゆっくりと押し込んでください。また、持ち上げるように支えて押し込んでください。いきおいよくそのままの状態では押し込んだりすると、ほかの装置やラックキャビネットに干渉してシャーシの変形の原因となります。
- システム装置をラックキャビネットに収納するときは、システム装置背面の電源ケーブルのケーブルクランプをひっかかないよう注意して下さい。破損するおそれがあります。ひっかった場合は、一度ラックキャビネットから引き出しケーブルクランプを上を持ち上げてから再度押し込んでください。
- システム装置を収納する際、インナーレールのガイドを持たないようにしてください。変形の原因となります。

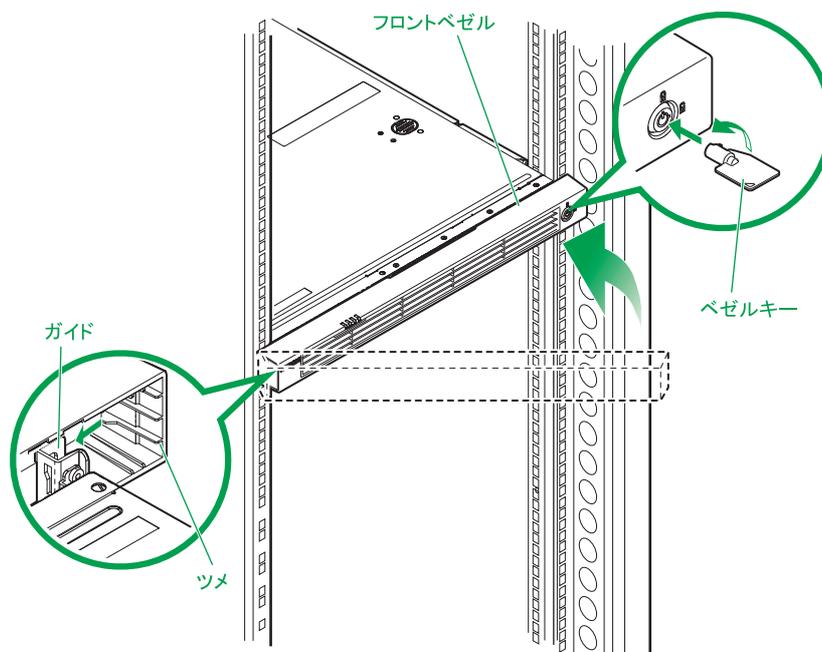
3.1.2 フロントベゼルを取り付ける・取り外す

ここではフロントベゼルの取り付け・取り外しについて説明します。

フロントベゼル (AU7694) は、システム装置に標準では搭載されておらずオプションとして別途購入した場合のみ別梱包で添付されます。

(1) フロントベゼルを取り付ける

- 1 インナーレールのガイドにフロントベゼル内側のツメを引っかけて、反対側を押し込みます。押し込んだあと、ベゼルキーでロックします。



…
補足

ベゼルキーはフロントベゼルの内側にテープで固定されています。

(2) フロントベゼルを取り外す

フロントベゼルの取り付けと逆の手順で行ってください。

3.2 システム装置の接続

ここでは、システム装置に周辺機器を接続する方法を説明します。

警告

周辺機器や内蔵オプションを増設・接続するときは、特に指示がない限りすべての電源プラグをコンセントから抜き、すべてのケーブル類を装置から抜いてください。感電や装置の故障の原因となります。また、マニュアルの説明にしたがい、マニュアルで使用できることが明記された周辺機器・内蔵オプション・ケーブル・電源コードを使用してください。それ以外のものを使用すると、接続仕様の違いにより周辺機器・内蔵オプションや装置の故障、発煙、発火や火災の原因となります。

通知

オプションの USB メモリー（FK802G/FK804G）をシステム装置前面の USB コネクタ（フロント）に接続したままの状態でもラックキャビネットのフロントドアを閉めないでください。フロントドアと干渉して、故障の原因となるおそれがあります。



OS のセットアップを行う場合、操作を行うために必要なディスプレイ、キーボード、マウスのみを接続してください。その他の外付けオプションデバイスを接続すると、内蔵ディスクが認識されず、正常に OS がセットアップできない場合があります。また、外付けのディスクアレイ装置を接続したまま OS のセットアップすると、内蔵ディスクがインストール先として正しく認識されません。これらの外付けオプションデバイス/外付けのディスクアレイ装置は、OS のセットアップが終了したあとに接続するか、電源を切った状態で OS のセットアップを行ってください。



ケーブルの接続は基本的に保守員が行います。なお、作業時は『ラックキャビネット取扱説明書』もご参照ください。

3.2.1 ディスプレイ・キーボード・マウス

通知

キーボード、マウスはサポートしているオプション品を使用してください。その他のものを使用した場合、正常に動作しなかったり故障したりすることがあります。

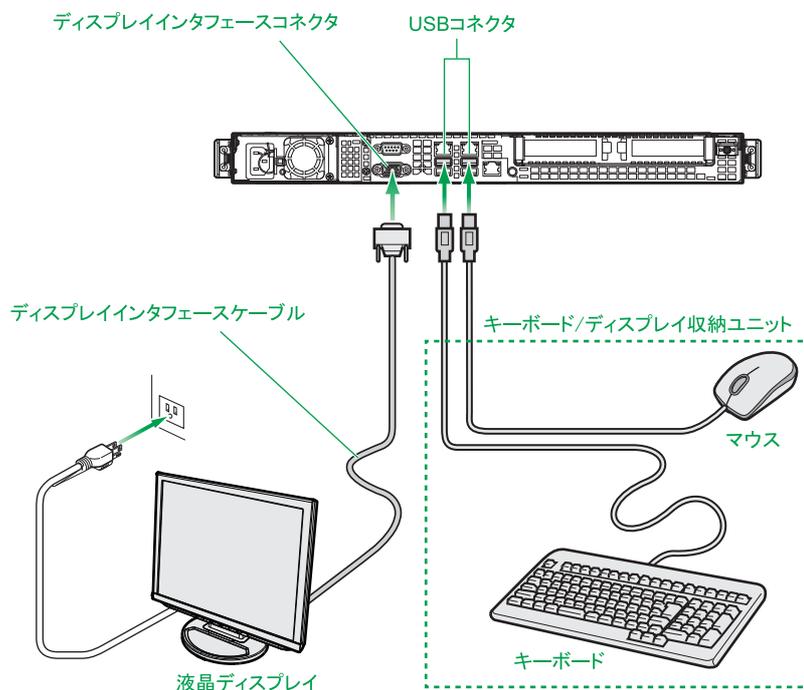
ディスプレイはシステム装置背面のディスプレイインタフェースコネクタにディスプレイインタフェースケーブルを接続し、キーボード・マウスはシステム装置背面の USB コネクタ（リア）に接続します。その後、ディスプレイの電源プラグをキャビネット内のコンセントボックスユニットまたは無停電電源装置（UPS）に接続します。



- コンセントはアース付きの接地型 2 極のものをお使いください。
- 電源コードがアース線付きの 2 極の場合は、アース線をアース端子に取り付けたあとに電源プラグをコンセントに接続します。



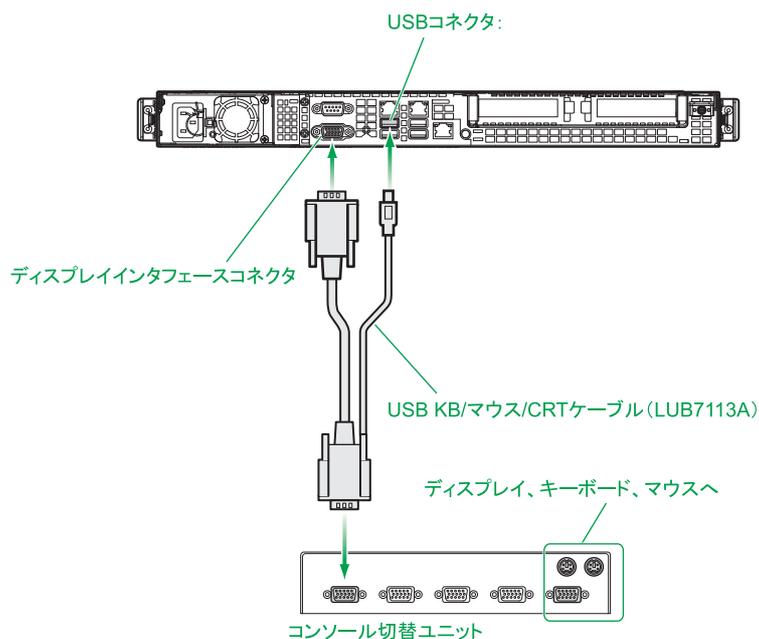
システム装置の構成を変更すると、Windows は最初の起動時に新ドライバの読み込みおよび新サービスの設定を行います。この間は USB ドライバが読み込まれないため、キーボードおよびマウスの入力が一時的にできません。システム装置の構成を変更した場合は、最初の Windows 起動時 1 ～ 2 分ほど待ってからキーボードおよびマウス入力を行ってください。



コンソール切替ユニットまたは、コンソール切替ユニットを搭載・内蔵しているディスプレイ/キーボードユニットを接続する場合、システム装置背面のディスプレイインタフェースコネクタおよびUSBコネクタ（リア）にUSB KB /マウス/CRT ケーブル（LUB7113A）を接続します。その後、ディスプレイやディスプレイ/キーボードユニット、コンソール切替ユニットの電源プラグをラックキャビネット内のコンセントボックスユニットまたは無停電電源装置（UPS）に接続します。

…
補足

コンソール切替ユニットやディスプレイ/キーボードユニットの接続については、それぞれに添付のマニュアルをご参照ください。



3.2.2 電源コード

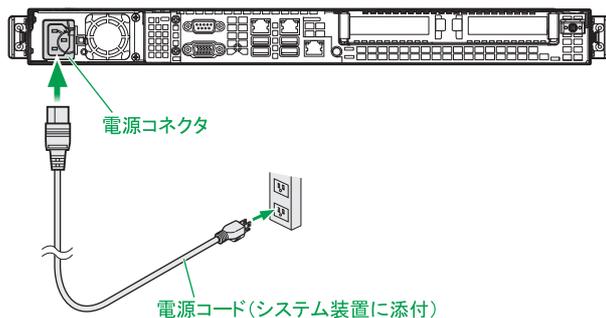
システム装置の電源コネクタに電源コードを接続します。コンセントはアース付きの接地型 2 極の AC100V が必要です。ラックキャビネット内のコンセントボックスユニットまたは無停電電源装置 (UPS) に接続してください。



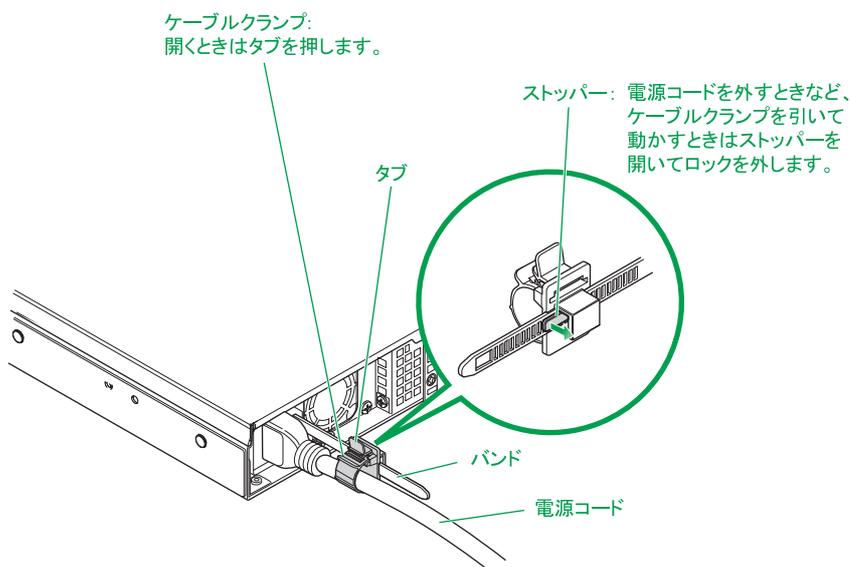
- 電源コード長が足りない場合が多いため、商用電源のコンセントに直接接続しないでください。
- システム装置またはコンセントから電源プラグを抜いた場合、30 秒以上経過してから再接続してください。これを行わないと、システム装置が起動しないことがあります。



- UPS へ電源コードを接続する場合、「3.2.3 無停電電源装置 (UPS)」P.42 をご参照ください。
- コンセントボックスユニットや UPS についてはそれぞれに添付のマニュアルをご参照ください。
- 電源コードを接続してシステム装置に AC 供給すると、BMC (Baseboard Management Controller) が起動し、システム装置前面・背面にある SERVICE ランプスイッチが 30 秒から 90 秒ほど点滅します。この間、MAINTENANCE ランプは表示されません。また、SERVICE ランプ点滅中に POWER ランプスイッチを押しても、システム装置の電源は入りますが、点滅が終わるまで起動しません。



電源コードをシステム装置に接続したあと、脱落防止のため、電源コードを電源ユニットに取り付けられているケーブルクランプで固定します。ケーブルクランプは電源コードを固定したあと、電源プラグの方向に押し込みます。



…
補足

システム装置をラックキャビネットに搭載し、電源コードを接続して出荷する場合、電源コードはケーブルクランプですでに固定されています。電源コードを添付して出荷する場合、電源コードは固定されていないため、上記のとおり固定してください。

3.2.3 無停電電源装置 (UPS)

無停電電源装置 (UPS) は、停電やブレーカ断などによってシステム装置への電源供給が停止された場合に電源を供給する装置です。

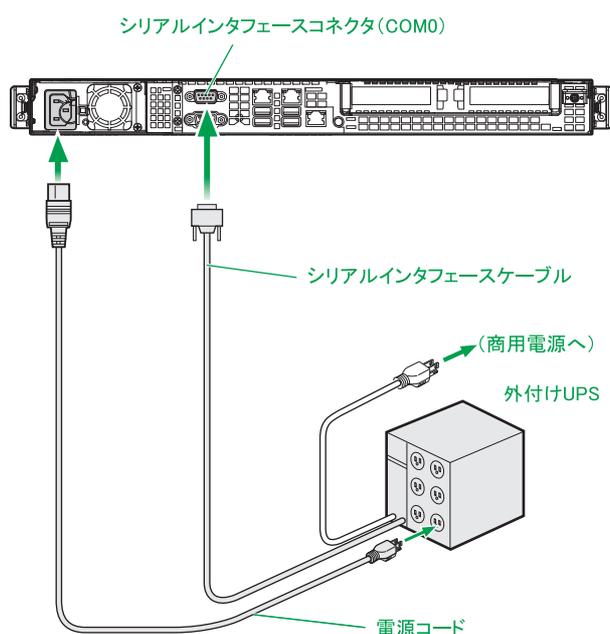
UPS は使用する OS に対応したものをお使いください。また、UPS のハードウェア設定については UPS 添付のマニュアルをご参照ください。

!
制限

- UPS を使用している場合でも、停電などによりシャットダウンしたあと電源が復旧しても、システム装置は自動で起動しません。自動で起動させるには別途 UPS 管理ソフトが必要になります。詳細についてはお買い求め先にお問い合わせください。また、これにあわせてセットアップメニューの設定を変更する必要があります。「Chipset」 - 「PCH-IO Configuration」 - 「Restore AC Power Loss」を、「Last State」から「Power On」に設定してください。
- UPS 管理ソフトを使用していない場合や自動で起動させない場合は、「Last State」のままご使用ください。

…
補足

- セットアップメニューにおいて、UPS を接続するインターフェースを使用できるように設定する必要があります。詳しくは『ユーザーズガイド ~ BIOS 編~』をご参照ください。
- Network Management Card (BUA702/BUA702A/BUA703/BUA703A) と UPS 管理ソフト「PowerChute Network Shutdown」を使用し、このオプションに適合する UPS を管理する場合、シリアルインターフェースではなく LAN で接続します。詳しくは各オプション添付マニュアルをご参照ください。



3.2.4 LAN ケーブル

システム装置を LAN や WAN などのネットワークに接続するために、システム装置背面にあるネットワークインタフェースコネクタとスイッチング HUB を LAN ケーブルで接続します。

ネットワークインタフェースコネクタは 2 つあります。

- ネットワークインタフェースコネクタ 1：オンボード LAN1 に接続
- ネットワークインタフェースコネクタ 2：オンボード LAN2 に接続

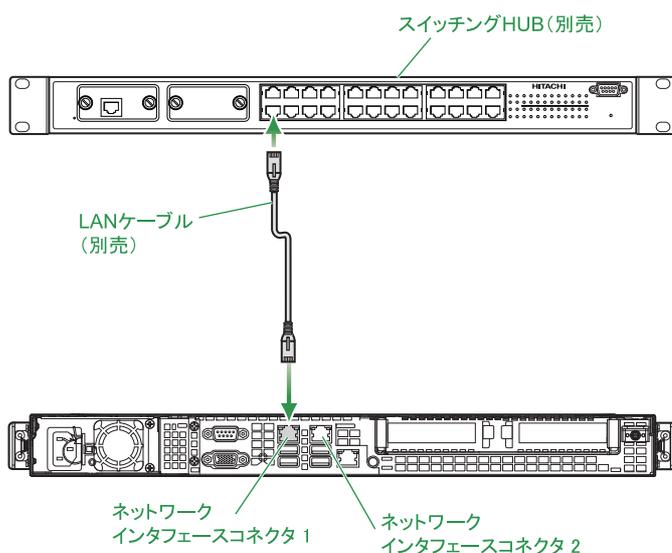
システム装置のオンボード LAN コントローラは、1000BASE-T/100BASE-TX/10BASE-T に対応しています。使用する LAN ケーブルはエンハンストカテゴリー 5 以上のものをお勧めします。



- ネットワークインタフェースコネクタへの LAN ケーブル接続は次のとおり取り扱ってください。取り扱いを誤ると、ネットワークインタフェースコネクタが破損したり、LAN ケーブルが破損・断線したりするおそれがあります。
 - ・ LAN ケーブルは RJ45/ISO8877 準拠のコネクタを使用したものをお使いください。
 - ・ LAN ケーブルはネットワークインタフェースコネクタに負荷がかからないようにルーティングしてください。
 - ・ LAN ケーブルを抜くときは、ケーブル側コネクタのフックを押しながらまっすぐ抜いてください。
- LAN ケーブルはスイッチング HUB を介してネットワークインタフェースコネクタやオプションの LAN ボードと接続してください。直接 LAN ケーブルを接続するとリンクしない場合があります。



- オンボード LAN (ネットワークインタフェース) は、デバイスマネージャー上で次のとおり表示されます。
 - ・ オンボード LAN1：PCI バス 4、デバイス 0、機能 0
 - ・ オンボード LAN2：PCI バス 4、デバイス 0、機能 1
- OS 上で表示されるデバイス No. は、ネットワークインタフェースコネクタの順序とは異なる場合があります。



3.2.5 その他外付けオプションデバイス

基本的な周辺機器であるディスプレイ、キーボード、マウス以外の外付けオプションデバイスをシステム装置に接続する場合は、それぞれの外付けオプションデバイスに添付されるマニュアルをご参照ください。

主な外付けオプションデバイスとして次のものがあります。

- 「ストレージシステム」
 エントリークラスディスクアレイ装置
- 「バックアップ用テープデバイス」
 LTO ライブラリ装置、テープエンクロージャ 2 装置 など
- スイッチング HUB
- コンソール切替ユニット

4

電源の操作

この章では、システム装置の電源操作を説明します。

4.1 電源を入れる / 切る.....	46
----------------------	----

4.1 電源を入れる / 切る

ここでは、システム装置の電源の入れかた・切りかたについて説明します。

通知

電源操作は決められた手順にしたがって行ってください。決められた手順にしたがわずに電源を入れたり切ったりすると、装置の故障やデータの消失の原因となります。

4.1.1 電源を入れる

ここでは、電源を入れる手順について説明します。

電源を入れる前に、コンセントやコンセントボックスユニット、UPS に AC100V が給電されていることをご確認ください。



- システム装置の電源を切ってから入れるまでは、10 秒以上間隔を空けてください。またシステム装置への AC 供給を遮断（配電盤のブレーカ断や UPS のスケジュール機能による AC 出力 OFF など）してから再投入するまでは、30 秒以上間隔を空けてください。それぞれ必要時間を経過せずに行った場合、システム装置が立ち上がらないことがあります。
なお、電源を切る方法については、「4.1.2 電源を切る」P.48 に記載された手順にしたがってください。
- 電源を入れてから切るまでは10秒以上の間隔を空け、POSTのメモリーチェックが始まったあとは、OS が起動するまで電源を切らないでください。次回システム装置が立ち上がらないことがあります。



- コンセントボックスユニットやUPSについてはそれぞれに添付のマニュアルをご参照ください。
- 電源コードを接続してシステム装置に AC 供給すると、BMC (Baseboard Management Controller) が起動し、システム装置前面・背面にある SERVICE ランプスイッチが 30 秒から 90 秒ほど点滅します。この間、MAINTENANCE ランプは表示されません。
また、SERVICE ランプ点滅中に POWER ランプスイッチを押しても、システム装置の電源は入りませんが、点滅が終わるまで起動しません。
- BMC ファームウェアに異常が発生した場合、BMC の機能により BMC が再起動されることがあります。BMC が再起動されると、システム装置前面・背面にある SERVICE ランプスイッチが 30 秒から 90 秒ほど点滅します。この間、システム装置の操作を控えてください。

1 ディスプレイなどの周辺機器の電源を入れます。



周辺機器によっては、システム装置よりもあとに電源を入れる必要がある場合があります。詳しくは周辺機器に添付されるマニュアルをご参照ください。
 なお、OS のインストール時や、プレインストールモデル/インストール代行サービス付モデルではじめて電源を入れる場合は、外付けの SAS デバイスの電源は入れないでください。インストール先が正しく認識されません。

2 ラックキャビネットのフロントドアを開け、システム装置前面の POWER ランプスイッチを押します。

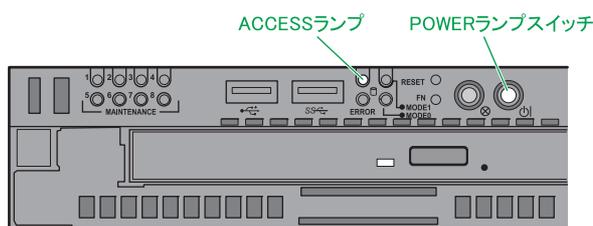
システム装置にフロントベゼル (AU7694) を搭載している場合は、フロントベゼルを取り外してから POWER ランプスイッチを押します。

フロントベゼル (AU7694) の取り外しかたについては『ユーザズガイド ~ オプションデバイス編 ~』「1.1.2 フロントベゼルを取り外す」を参照ください。

ラックキャビネットに添付の『ラックキャビネット取扱説明書』を参照し、フロントドアを開けてください。



POWER ランプスイッチは入・切の状態を記憶しています。セットアップメニューの設定および管理ソフトにより、UPS を使用しているときに停電などが発生した場合、電源復旧時すぐにシステム装置を起動することができます。



3 システム装置の電源が入ります。

システム装置前面の POWER ランプスイッチが緑色に点灯します。

プレインストールモデル/インストール代行サービス付モデルでは、はじめて電源を入れると OS のセットアップが開始されます。『ユーザズガイド ~ Windows セットアップ編 ~』を参照し、セットアップを行ってください。

OS がインストールされている場合は OS が立ち上がります。



- システム装置の構成を変更すると、Windows は最初の起動時に新ドライバの読み込みおよび新サービスの設定を行います。この間は USB ドライバが読み込まれないため、キーボードおよびマウスの入力が一時的にできません。
 システム装置の構成を変更した場合は、最初の Windows 起動時 1 ~ 2 分ほど待ってからキーボードおよびマウス入力を行ってください。
- システム装置に搭載されているメモリーボードの容量によっては、初期画面が表示されるまでに数分時間がかかることがあります。
- Windows Server 2012 を UEFI (Unified Extensible Firmware Interface) ブートモードでインストールする場合、「EFI shell」からインストールメディアを起動する必要があります。「EFI shell」の起動については、『ユーザズガイド ~ BIOS 編 ~』「1.4 UEFI ブート」をご参照ください。
 なお、UEFI ブートは RS110 AM/BM モデルでサポートしています。

4.1.2 電源を切る

ここでは、電源を切る手順について説明します。

なお、セットアップの手順として、ここで電源を切る必要はありません。電源の操作は、セットアップ終了後、必要に応じて行ってください。



プレインストールモデル/インストール代行サービス付モデルのセットアップでは、通常、セットアップが終了するまで電源を操作することはありません。

(1) 電源を切る

通知

- 電源を切る前に、すべてのアプリケーションの処理が終了していることと、接続されているデバイスや周辺機器にアクセスがない（停止している）ことをご確認ください。
動作中に電源を切ると、装置の故障やデータの消失の原因となります。
- シャットダウン処理を行う必要がある OS をお使いの場合、シャットダウン処理が終了してから電源を切ってください。データを消失するおそれがあります。
なお、OSにより電源を切る手順が異なりますので、OSに添付されるマニュアルもあわせてご参照ください。

- 1 システム装置に接続されている周辺機器のアクセスがないことを確認します。
- 2 ラックキャビネットのフロントドアを開け、システム装置の ACCESS ランプが消灯していることを確認し、システム装置の POWER ランプスイッチを押します。

システム装置にフロントベゼル (AU7694) を搭載している場合は、フロントベゼルを取り外してから POWER ランプスイッチを押します。

フロントベゼル (AU7694) の取り外しかたについては『ユーザーズガイド ~オプションデバイス編~』「1.1.2 フロントベゼルを取り外す」を参照ください。

システム装置の電源が切れます。



周辺機器によっては、システム装置よりも前に電源を切る必要がある場合があります。詳しくは周辺機器に添付されるマニュアルをご参照ください。



- OSがシャットダウンしたあと、自動で電源が切れる場合はPOWERスイッチを押す必要はありません。
- POWER ランプスイッチを押しても電源が切れないときは、キャッシュ保護が働いています。この場合、しばらくすると電源は切れます。

- 3 周辺機器の電源を切ります。

(2) 強制的に電源を切る

OS が正常に作動しなくなったときなど、POWER ランプスイッチを押しても電源が切れないことがあります。この場合、POWER ランプスイッチを 4 秒以上押し続けると電源を切ることができます。セットアップ後において通常の方法で電源が切れない場合以外は行わないでください。

強制的に電源を切ったあと、OS やアプリケーションが正常に動作しなくなったり、保存データの安全性に問題が生じたりすることがあります。このような場合、OS やアプリケーションの再セットアップや、バックアップデータからの復旧を行ってください。

(3) アプリケーションの終了とリセット

アプリケーションの処理中にシステム装置が動かなくなった場合は、OS のアプリケーションを強制終了させたり、OS を強制的に再起動（リセット）すると、正常に動作する場合があります。OS に添付されるマニュアルをご参照ください。

なお、アプリケーションの強制終了やリセットを行ったあと、OS やアプリケーションが正常に動作しなかったり、保存データの安全性に問題が生じたりすることがあります。このような場合、OS やアプリケーションの再セットアップや、バックアップデータからの復旧を行ってください。

5

仕様

この章では、システム装置の仕様について説明します。

5.1 システム装置の仕様.....	52
--------------------	----

5.1 システム装置の仕様

5.1.1 RS110 AM/BM モデル

シリーズ		HA8000/RS110			
モデル		AM		BM	
シャーシタイプ		ラックタイプ [1U]			
ディスクタイプ		SAS / SATA RAID5 (2.5 型)	SAS / SATA RAID5 キャッシュバック アップ付 (2.5 型)	SATA RAID5 (3.5 型)	
CPU	サポート CPU (周波数)	インテル Xeon プロセッサー E3-1280v3 (3.60GHz) *1 / E3-1270v3 (3.50GHz) *1 / E3-1220v3 (3.10GHz) *1			
	プロセッサ数 [コア数]	1 [4]			
	1 次キャッシュ	32KB + 32KB/ コア			
	2 次キャッシュ	256KB/ コア			
	3 次キャッシュ	8MB			
チップセット		インテル C224			
ダイレクトメディアインタフェース (DMI) 動作スピード		5.00 GT/s			
メインメモリー	サポート DIMM	2048MB/4096MB/8192MB Unbuffered DIMM (DDR3 1600 SDRAM)			
	エラー訂正	ECC			
	スロット数	4			
	容量	最大	32GB		
		最小	2GB		
表示機能	アクセラレータ	Emulex Pilot3[オンボード]			
	VRAM	32MB			
	表示解像度 (表示色) *2	640 × 480 ドット (1677 万色)、800 × 600 ドット (1677 万色) 1024 × 768 ドット (1677 万色)、1280 × 1024 ドット (1677 万色)			
ディスクコントローラ	コントローラ	LSI SAS 2208 ROC			
	インタフェース	SAS 6Gb/s、SATA 6Gb/s			
	キャッシュ容量	512MB	1024MB (キャッシュバック アップ付)	512MB	
		RAID レベル			
	RAID 0、1、5、6、10、JBOD				
	ホットプラグ			サポート	
	ホットスワップ			サポート *3	

シリーズ		HA8000/RS110					
モデル		AM		BM			
デバイス	DVD-ROM/DVD-RAM *4		SATA 8 倍速 (DVD-ROM リード) 薄型 / SATA 8 倍速 /5 倍速 (DVD-ROM リード /DVD-RAM リード) 薄型 × 1				
	HDD *5	インタフェース	SAS 6Gb/s		SATA 3Gb/s (500GB, 1TB) SATA 6Gb/s (2TB, 3TB, 4TB)		
		回転数	10000r/min	15000r/min	7200r/min		
		最大容量 (内蔵) *6	RAID 0	5400GB (900GB × 6HDD)	1800GB (300GB × 6HDD)	16000GB (4TB × 4HDD)	
			RAID 5	4500GB (900GB × 6HDD)	1500GB (300GB × 6HDD)	12000GB (4TB × 4HDD)	
		サポート容量	300GB, 450GB, 600GB, 900GB	146GB, 300GB	500GB, 1TB, 2TB, 3TB, 4TB		
	SSD *5	インタフェース	SATA 3Gb/s (100GB) SATA 6Gb/s (200GB)	SAS 6Gb/s		—	
		最大容量 (内蔵)	RAID 0	1200GB (200GB × 6SSD)		—	
			RAID 5	1000GB (200GB × 6SSD)		—	
		サポート容量	100GB, 200GB	200GB	—		
拡張ストレージベイ	3.5 型ベイ		6		4		
	5 型ベイ (薄型)		1 (DVD-ROM/DVD-RAM 専用)				
拡張スロット	スロット		PCI Express 3.0 x16 (Low Profile) : 1 PCI Express 2.0 x4 (Low Profile) : 1 *7				
	空きスロット		1 (ディスクアレイコントローラボードで 1 スロット使用)				
標準インタフェース		ディスプレイ (ミニ D-SUB15 ピン) × 1, シリアル (D-SUB9 ピン) × 1 USB2.0 × 3 (前面 1, 背面 2) *8 USB3.0 × 3 (前面 1, 背面 2) *8					
LAN	コントローラ		Broadcom BCM5718 × 2 [オンボード] MICREL KSZ8051RNL × 1 [オンボード: リモートマネジメント用]				
	インタフェース		Broadcom BCM5718 : 100BASE-T/100BASE-TX/10BASE-T × 2 (RJ-45) MICREL KSZ8051RNL : 100BASE-TX/10BASE-T × 1 (RJ-45)				
	Wake On LAN 機能		サポート *9				
外形寸法 *10		444 (W) × 616 (D) × 43.4 (H) mm					
質量 *11		11.8kg (最大: 13.4kg)		12.2kg (最大: 14.6kg)			
サポート OS *12	Windows		Windows Server 2012 Standard 日本語版 (SP なし) Windows Server 2008 R2 Standard 日本語版 (SP なし /SP1)				
	Linux		RHEL6.4 (64-bit x86_64) *13 *14 *15 *16 RHEL6.4 (32-bit x86) *13 *14 *15 *16				
	VMware		VMware vSphere ESXi 5.1 (Update 1) *14 *17				
内蔵時計精度		± 120 秒 / 月					
運用時消費電力 *18 / 最大消費電力		159W/235W		157W/231W			
運用時皮相電力 *18 / 最大皮相電力		162VA/237VA		159VA/232VA			

シリーズ		HA8000/RS110	
モデル		AM	BM
省エネ法に基づく表示 (2011年度規定)	区分	I	
	エネルギー消費効率 *19	インテル Xeon プロセッサ E3-1280v3 : 0.13 インテル Xeon プロセッサ E3-1270v3 : 0.13 インテル Xeon プロセッサ E3-1220v3 : 0.15	
騒音値		50dB 以下 (ISO7779 準拠) *20	
温度条件 / 湿度条件		10 ~ 35 °C [非動作時 : 0 ~ 40 °C] / 20 ~ 80% [非動作時 : 10 ~ 90% (結露のないこと)]	
電源	電圧	AC100V 50/60Hz	
	コンセント形状 (電源コード本数)	接地型 2 極差込コンセント (1 本)	
	冗長化電源	サポート対象外	

- *1: 次の機能に対応しています。
Intel Hyper-Threading Technology (Xeon プロセッサ E3-1220v3 を除く) / Intel Virtualization Technology / Intel 64 / NX (Execute Disable Bit) / Enhanced Intel SpeedStep Technology / Intel Turbo Boost Technology
- *2: 使用するディスプレイや OS の制限などにより、実際に設定できる解像度、表示色は異なります。
- *3: ディスクアレイの構成により、ホットスワップ用のハードディスクが搭載できない場合があります。
- *4: DVD-ROM ドライブと DVD-RAM ドライブは択一です。
- *5: ハードディスクの容量表記は、1GB=10⁹ バイトとして計算した容量です。
- *6: ディスクパーティションテーブルのフォーマット形式には、GPT (GUID Partition Table) と MBR (Master Boot Record) があります。それぞれのパーティションテーブルで認識可能な最大容量は、GPT が 256TB (NTFS の実装上の制限による)、MBR が 2TB です。このため、OS をインストールする論理ドライブ (ブートパーティション) に MBR を使用する場合、論理ドライブ (LU) 容量は 2TB (2199GB) を超えないように設定してください。超えてしまった場合、OS からパーティションが作成できなくなります。RAID 管理ユーティリティや RAID BIOS からディスクアレイや論理ドライブを構築しなおしてください。
なお、ディスクアレイは分割して複数の論理ドライブを設定することができます。
また、ブートパーティションに GPT を使用する場合、Windows Server 2012 は UEFI (Unified Extensible Firmware Interface) ブートにより OS をインストールする必要があります。RS110 AM/BM モデルは Windows Server 2012 または VMware vSphere ESXi 5.1 使用時のみ UEFI ブートをサポートしています。
- *7: スロット形状は PCI Express x8 ですが、PCI Express x4 で動作します。
- *8: サポートしていない USB 機器を接続した場合、システム装置の動作に影響を及ぼすおそれがあります。
- *9: サポート OS 環境で、『Hitachi Compute Systems Manager』または『JP1/ServerConductor』が必要になります。また、リモートマネジメント用インタフェースにおいてはサポートしません。
- *10: スライドレールおよびインナーレール、突起物、装置背面の電源ユニットのケーブルクランプ、フロントベゼルは含みません。
- *11: ラックキャビネット搭載用のスライドレールおよびインナーレール (1.99kg) を含みます。
- *12: 日本語版のみサポートしています。
- *13: Linux OS に関しては動作確認情報を公開するものであり、すべての動作を保証するものではありません。動作確認情報は次の URL でご確認いただけます。
<http://www.hitachi.co.jp/linux/>
- *14: 「日立サポート 360」の OS サポートサービス契約を前提としてサポートします。
- *15: RAID 追加機能のうち「MegaRAID Recovery 機能」使用時はサポートしておりません。
- *16: カーネルバージョンは「2.6.32-358.6.2.el6」をサポートします。
- *17: RAID 追加機能使用時はサポートしておりません。
- *18: 通常運用時の目安です。
- *19: エネルギー消費効率とは、省エネ法で定める測定方法により測定した消費電力を、省エネ法で定める複合論理性能 (GTOPS) で除したものです。
- *20: 専用室への設置をお勧めします。設置環境や設置場所により、騒音が大きいと感じられることがありますので、一般事務室に設置する場合には、環境や場所に十分ご注意の上、導入してください。
なお、本装置においては、装置内部温度によってファンの回転数制御を行っているため、高温環境下で最大負荷を継続した場合や、ファンが 1 つ故障した場合には本基準値を超えることがあります。また、電源投入時およびリブート時にもファン回転数が一時的に最大になるため、本基準値を超えることがあります。

5.1.2 RS110 CM モデル

シリーズ		HA8000/RS110			
モデル		CM			
シャーシタイプ		ラックタイプ [1U]			
ディスクタイプ		SATA RAID1 (3.5 型)	SATA ディスク (3.5 型)		
CPU	サポート CPU (周波数)	インテル Xeon プロセッサ E3-1280v3 (3.60GHz) *1 / E3-1270v3 (3.50GHz) *1 / E3-1220v3 (3.10GHz) *1			
	プロセッサ数 [コア数]	1 [4]			
	1 次キャッシュ	32KB + 32KB/ コア			
	2 次キャッシュ	256KB/ コア			
	3 次キャッシュ	8MB			
チップセット		インテル C224			
ダイレクトメディアインタフェース (DMI) 動作スピード		5.00 GT/s			
メインメモリー	サポート DIMM	2048MB/4096MB/8192MB Unbuffered DIMM (DDR3 1600 SDRAM)			
	エラー訂正	ECC			
	スロット数	4			
	容量	最大	32GB		
		最小	2GB		
表示機能	アクセラレータ	Emulex Pilot3[オンボード]			
	VRAM	32MB			
	表示解像度 (表示色) *2	640 × 480 ドット (1677 万色) ,800 × 600 ドット (1677 万色) 1024 × 768 ドット (1677 万色) ,1280 × 1024 ドット (1677 万色)			
ディスクコントローラ	コントローラ	SATA RAID [オンボード]	SATA [オンボード]		
	インタフェース	SATA 6Gb/s			
	キャッシュ容量	-			
	RAID レベル	RAID 0, 1	-		
	ホットプラグ	サポート対象外			
	ホットスワップ	サポート *3	サポート対象外		
デバイス	DVD-ROM/DVD-RAM *4		SATA 8 倍速 (DVD-ROM リード) 薄型 / SATA 8 倍速 /5 倍速 (DVD-ROM リード /DVD-RAM リード) 薄型 × 1		
	HDD *5	インタフェース	SATA 3Gb/s (500GB, 1TB) SATA 6Gb/s (2TB, 3TB, 4TB)		
		回転数	7200r/min		
		最大容量 (内蔵) *6	RAID 0	16000GB (4TB × 4HDD)	-
			RAID 1	8000GB (4TB × 2HDD × 2Array)	-
	Non RAID		-	14000GB (2TB × 1HDD, 4TB × 3HDD)	
サポート容量	500GB, 1TB, 2TB, 3TB, 4TB				
拡張ストレージベイ	3.5 型ベイ	4			
	5 型ベイ	1			
	5 型ベイ (薄型)	1 (DVD-ROM/DVD-RAM 専用)			

シリーズ		HA8000/RS110	
モデル		CM	
拡張 スロット	PCI	スロット	PCI Express 3.0 x16 (Low Profile) : 1 PCI Express 2.0 x4 (Low Profile) : 1 *7
		空きスロット	2
標準インタフェース		ディスプレイ (ミニ D-SUB15 ピン) × 1、シリアル (D-SUB9 ピン) × 1 USB2.0 × 3 (前面 1、背面 2) *8 USB3.0 × 3 (前面 1、背面 2) *8	
	LAN	コントローラ	Broadcom BCM5718 × 2 [オンボード] MICREL KSZ8051RNL × 1 [オンボード: リモートマネジメント用]
		インタフェース	Broadcom BCM5718 : 1000BASE-T/100BASE-TX/10BASE-T × 2 (RJ-45) MICREL KSZ8051RNL : 100BASE-TX/10BASE-T × 1 (RJ-45)
		Wake On LAN 機能	サポート *9
外形寸法 *10		444 (W) × 616 (D) × 43.4 (H) mm	
質量 *11		12.2Kg (最大: 14.6Kg)	
サポート OS *12	Windows	Windows Server 2012 Standard 日本語版 (SP なし) Windows Server 2008 R2 Standard 日本語版 (SP なし /SP1)	
	Linux	—	RHEL6.4 (64-bit x86_64) *13 *14 *15 RHEL6.4 (32-bit x86) *13 *14 *15
内蔵時計精度		± 120 秒 / 月	
運用時消費電力 *16 / 最大消費電力		147W/227W	
運用時皮相電力 *16 / 最大皮相電力		149VA/228VA	
省エネ法に 基づく表示 (2011 年度規定)	区分	I	
	エネルギー 消費効率 *17	インテル Xeon プロセッサ E3-1280v3 : 0.13 インテル Xeon プロセッサ E3-1270v3 : 0.13 インテル Xeon プロセッサ E3-1220v3 : 0.15	
騒音値		50dB 以下 (ISO7779 準拠) *18	
温度条件 / 湿度条件		10 ~ 35 °C [非動作時: 0 ~ 40 °C] / 20 ~ 80% [非動作時: 10 ~ 90% (結露のないこと)]	
電源	電圧	AC100V 50/60Hz	
	コンセント形状 (電源コード本数)	接地型 2 極差込コンセント (1 本)	
	冗長化電源	サポート対象外	

*1: 次の機能に対応しています。

Intel Hyper-Threading Technology (Xeon プロセッサ E3-1220v3 を除く) / Intel Virtualization Technology / Intel 64 / NX (Execute Disable Bit) / Enhanced Intel SpeedStep Technology / Intel Turbo Boost Technology

*2: 使用するディスプレイや OS の制限などにより、実際に設定できる解像度、表示色が異なります。

*3: ディスクアレイの構成により、ホットスワップ用のハードディスクが搭載できない場合があります。

*4: DVD-ROM ドライブと DVD-RAM ドライブは択一です。

*5: ハードディスクの容量表記は、1G バイト = 10^9 バイトとして計算した容量です。

*6: ディスクパーティションテーブルのフォーマット形式には、GPT (GUID Partition Table) と MBR (Master Boot Record) があります。それぞれのパーティションテーブルで認識可能な最大容量は、GPT が 256TB (NTFS の実装上の制限による)、MBR が 2TB です。OS をインストールする論理ドライブ (ブートパーティション) は、RS110 CM モデルでは MBR のみサポートしているため、ブートパーティションの論理ドライブ (LU) 容量は 2TB (2199GB) を超えないように設定してください。超えてしまった場合、OS からパーティションが作成できなくなります。SATA RAID1 タイプ (オンボード RAID) は RAID 管理ユーティリティや RAID BIOS からディスクアレイや論理ドライブを構築しなおしてください。なお、ディスクアレイは分割して複数の論理ドライブを設定することができます。

*7: スロット形状は PCI Express x8 ですが、PCI Express x4 で動作します。

*8: サポートしていない USB 機器を接続した場合、システム装置の動作に影響を及ぼすおそれがあります。

*9: サポート OS 環境で、『Hitachi Compute Systems Manager』または『JP1/ServerConductor』が必要になります。また、リモートマネジメント用インタフェースにおいてはサポートしません。

*10: スライドレールおよびインナーレール、突起物、装置背面の電源ユニットのケーブルクランプ、フロントベゼルは含みません。

- *11: ラックキャビネット搭載用のスライドレールおよびインナーレール (1.99kg) を含みます。
- *12: 日本語版のみサポートしています。
- *13: Linux OS に関しては動作確認情報を公開するものであり、すべての動作を保証するものではありません。動作確認情報は次の URL でご確認いただけます。
<http://www.hitachi.co.jp/linux/>
- *14: 「日立サポート 360」の OS サポートサービス契約を前提としてサポートします。
- *15: カーネルバージョンは「2.6.32-358.6.2.el6」をサポートします。
- *16: 通常運用時の目安です。
- *17: エネルギー消費効率とは、省エネ法で定める測定方法により測定した消費電力を、省エネ法で定める複合論理性能 (GTOPS) で除したものです。
- *18: 専用室への設置をお勧めします。設置環境や設置場所により、騒音が大きいと感じられることがありますので、一般事務室に設置する場合には、環境や場所に十分ご注意の上、導入してください。
なお、本装置においては、装置内部温度によってファンの回転数制御を行っているため、高温環境下で最大負荷を継続した場合や、ファンが1つ故障した場合には本基準値を超えることがあります。また、電源投入時およびリブート時にもファン回転数が一時的に最大になるため、本基準値を超えることがあります。



付録

付録 A お問い合わせ先.....	60
付録 B サポート&サービスのご案内.....	63
付録 C ロングライフサポートサービスについて	66
付録 D 預けて安心ロングライフモデルについて	67

付録 A お問い合わせ先

ここでは、ご質問や不具合の内容に応じたお問い合わせ先をご案内しています。

付録 A.1 最新情報・Q&A・ダウンロードは

「HA8000 ホームページ」で、製品情報や重要なお知らせ、技術情報、ダウンロードなどの最新情報を提供しています。

■ ホームページアドレス：<http://www.hitachi.co.jp/ha8000/>

次の「HA8000 ホームページ」のサイト情報は 2013 年 9 月現在の情報です。

▶ マニュアル

最新版のマニュアルを掲載しています。

サイトトップにある [マニュアル] アイコンをクリックしてください。または、[ダウンロード] タブをクリックした「ダウンロード」ページにある [製品添付マニュアル] をクリックしてください。

▶ ダウンロード

最新のドライバやユーティリティ、BIOS、ファームウェア アップデートプログラムなどを提供しています。

サイトトップにある [ドライバ・ユーティリティ新着情報] をクリックしてください。または、[ダウンロード] タブをクリックした「ダウンロード」ページにある [ドライバ・ユーティリティ新着情報] および [ドライバ・ユーティリティの検索] をクリックしてください。

各アップデートプログラムの適用についてはお客様責任にて実施していただきますが、システム装置を安全にお使いいただくためにも、[ドライバ・ユーティリティ新着情報] は定期的にアクセスして、最新のドライバやユーティリティ、BIOS、ファームウェアへ更新いただくことをお勧めします。

なお、『Hitachi Server Navigator』を適用することにより、最新版のファームウェアおよびドライバの有無を確認し、ダウンロードおよびアップデートを実施することが可能です。

使いかたの詳細は『ユーザーズガイド』CD-ROM に格納される『Hitachi Server Navigator ユーザーズガイド』をご参照ください。

また、お客様による BIOS、ファームウェア アップデート作業が困難な場合は、有償でアップデート作業を代行するサービスをご提供いたします。詳細はお買い求め先にお問い合わせください。

▶ 製品に関する重要なお知らせ

製品の使用における重要なお知らせを掲載しています。

サイトトップまたは、[サポート] タブをクリックした「サポート」ページにある [製品に関する重要なお知らせ] をクリックしてください。

▶ ハードウェア情報

製品の仕様や特徴などの情報を提供しています。必要に応じてご利用ください。

[製品] タブをクリックした「製品」ページにある [タワーサーバ] [ラックサーバ] [オプション機器] をクリックしてください。

▶ ソフトウェア情報

HA8000 シリーズのサポート OS や管理ソフトウェアに関連する情報を提供しています。必要に応じてご利用ください。

[製品] タブをクリックした「製品」ページにある [ソフトウェア] をクリックしてください。

▶ サポートサービス

HA8000 シリーズを安心してご利用いただくための、ハードウェアおよびソフトウェアのサポートサービス情報を掲載しています。必要に応じてご利用ください。

[サポート] タブをクリックした「サポート」ページにある [サポートサービス] をクリックしてください。

▶ よくあるご質問

よくあるご質問とその回答を掲載しています。お問い合わせいただく前に一度ご確認ください。

[サポート] タブをクリックした「サポート」ページにある [よくあるご質問] をクリックしてください。

付録 A.2 操作や使いこなしについて

本製品のハードウェアの機能や操作方法に関するお問い合わせは、HCA センタ（HITAC カスタマ・アンサ・センタ）でご回答いたしますので、次のフリーダイヤルにおかけください。受付担当がお問い合わせ内容を承り、専門エンジニアが折り返し電話でお答えするコールバック方式を取らせていただきます。

▶ HCA センタ（HITAC カスタマ・アンサ・センタ）

 0120-2580-91

受付時間

9:00 ~ 12:00 / 13:00 ~ 17:00（土・日・祝日、年末年始、夏季休暇など弊社指定休日を除く）

▶ お願い

- お問い合わせになる際に次の内容をメモし、お伝えください。お問い合わせ内容の確認をスムーズに行うため、ご協力をお願いいたします。

形名 (TYPE) / 製造番号 (S/N) / インストール OS

「形名」および「製造番号」は、システム装置前面に貼り付けられている機器ラベルにてご確認ください。

- 質問内容を FAX でお送りいただくこともありますので、ご協力をお願いいたします。
- HITAC カスタマ・アンサ・センタでお答えできるのは、本製品のハードウェアの機能や操作方法などです。ハードウェアに関する技術支援や、OS や各言語によるユーザープログラムの技術支援は除きます。ハードウェアや OS の技術的なお問い合わせについては有償サポートサービスにて承ります。
→ 「付録 B.2 技術支援サービスについて」 P.65
- 明らかにハードウェア障害と思われる場合は、販売会社または保守会社にご連絡ください。

付録 A.3 ハードウェア障害について

システム装置の深刻なエラーが発生したときは、お買い求め先の販売会社または、ご契約の保守会社にご連絡ください。ご連絡先をご購入時にお控えになった連絡先をご参照ください。なお、日立コールセンタでもハードウェア障害に関するお問い合わせを承っております。

またご連絡いただくときは、『ユーザーズガイド ～運用編～』「付録 C エラーが発生したときは」をご参照ください。トラブルの早期解決に役立ちます。

付録 A.4 欠品・初期不良・故障について

本製品の納入時の欠品や初期不良および修理に関するお問い合わせは日立コールセンタにご連絡ください。

▶ 日立コールセンタ



0120-921-789

受付時間

9:00～18:00（土・日・祝日、年末年始、夏季休暇など弊社指定休日を除く）

▶ お問い合わせ

- お電話の際には、製品同梱の保証書をご用意ください。
- Web によるお問い合わせは次へお願いします。

https://e-biz.hitachi.co.jp/cgi-shell/qa/rep_form.pl?TXT_MACTYPE=1

付録 A.5 技術的なお問い合わせ先について

本製品のハードウェア、OS、ソフトウェアに関する次の技術的なお問い合わせには、有償サポートサービス「日立サポート 360」のご契約が必要です。

- インストール、セットアップなどの操作手順や設定方法
- 本製品で発生した障害の原因切り分けおよび対策、回避策について有償サポートサービスご契約時に送付される、サービス利用ガイドをご参照いただき、日立ソリューションサポートセンタにお問い合わせください。

▶ 日立ソリューションサポートセンタ



フリーダイヤル：ご契約時に送付されるサービス利用ガイドをご参照ください。

受付時間： ご契約の内容にしたがいます。

有償サポートサービスの詳細は「付録 B.2 技術支援サービスについて」P.65 をご参照ください。

なお、ハードウェア障害の修理はハードウェア保守サービスで対応します。詳細は「付録 B.1 ハードウェア保守サービスについて」P.63 をご参照ください。

付録 B サポート & サービスのご案内

システム装置を最良の状態でお使いいただくためのサポートサービスについて説明します。

付録 B.1 ハードウェア保守サービスについて

□ 無償保証について

システム装置をご購入いただいた日から1年間は、無償保守を行います。

保証書は紛失しないよう、大切に保管してください。

無償修理期間	ご購入日より1年間 *1
サービス内容 *2	「出張修理サービス（翌平日オンサイト）」 障害連絡後の翌平日以降にサービス員が出張による修理（無償）
サービス時間 *2	平日 9:00～17:00 （土・日・祝日、年末年始を除く）
対象製品	HA8000/RS110 システム装置および内蔵オプション *3 （OS およびソフトウェア製品は対象外）

*1 使用期間により寿命となる有寿命部品は交換をお勧めします。

*2 交通事情・天候や地理条件（島しょや山間部、遠隔地）などにより、上記日時は変更となる場合があります。

*3 HA8000 専用外付けオプションに関しては、無償修理期間はご購入日より1年間となります。ただし、ディスプレイ装置など個々に保証書が添付されている弊社標準オプションについては、その保証書に記載されている保証期間が適用されます。HA8000 専用内蔵オプションに関しては、当該オプションが内蔵されているシステム装置本体の無償修理期間が適用されます。

無償修理期間後の保守サービスや、無償修理期間中でも「維持保守サービス（当日オンサイト）」など別の保守サービスをお受けになる際は、お買い求め先または保守会社にご相談ください。

なお、「おまかせ安心モデル」、「おまかせ安心ロングライフモデル」、「ロングライフサポートモデル」や「預けて安心ロングライフモデル」をご購入いただいた場合は、サービス内容がアップグレードされます。

「おまかせ安心モデル」および「おまかせ安心ロングライフモデル」の詳細については、システム装置に添付される『おまかせ安心サポート & サービスのご案内』をご参照ください。

「ロングライフサポートモデル」の詳細については、「付録 C ロングライフサポートサービスについて」P.66をご参照ください。

「預けて安心ロングライフモデル」の詳細については、「付録 D 預けて安心ロングライフモデルについて」P.67をご参照ください。

□ 保守サービスの種類

■ 契約保守

あらかじめお客様とお買い求め先の間で「保守契約」を結び、本製品にトラブルが発生した場合に保守サービスを行います。

■ パーコール保守

何らかの事情で、上記の保守契約を結んでいないお客様からの修理依頼を受け、保守サービスを行います。

□ 保守サービス期間について

保守サービス期間は、本製品の納入時より5年間です。

□ 保守作業時の注意事項

システム装置の障害などによる保守作業において部品交換が発生した場合、交換した部品や BIOS、ファームウェアは基本的に最新のバージョンが適用されます。また、必要に応じて交換していない部品の BIOS、ファームウェアも最新のバージョンに更新することがあります。保守作業前と異なる場合があることをあらかじめご了承ください。

□ 製品保証について

■ 保証規定

保証規定は保証書の裏面に記載されておりますので、よくお読みください。

■ 保証期間

保証期間は保証書に記載されておりますのでご参照ください。

■ 有寿命部品の扱いについて

システム装置には、使用しているうちに劣化・消耗する有寿命部品があります。

寿命に達した有寿命部品はシステム装置の故障やデータの消失などの原因となりますので、早期に交換することをお勧めします。詳細は『ユーザーズガイド ～運用編～』「付録 A お手入れと交換品」をご参照ください。

付録 B.2 技術支援サービスについて

ハードウェアや OS、ソフトウェアの技術的なお問い合わせについては、「技術支援サービス」による有償サポートとなります。

▶ 総合サポートサービス「日立サポート 360」

ハードウェアと Windows や Linux など OS を一体化したサポートサービスをご提供いたします。詳細は次の URL で紹介しています。

- ホームページアドレス <http://www.hitachi.co.jp/soft/symphony/>

インストールや運用時のお問い合わせや問題解決など、システムの円滑な運用のためにサービスのご契約をお勧めします。

▶ HA8000 問題切分支援・情報提供サービス

ハードウェアとソフトウェアの問題切り分け支援により、システム管理者の負担を軽減します。詳細は次の URL で紹介しています。

- ホームページアドレス <http://www.hitachi.co.jp/soft/HA8000/>

運用時の問題解決をスムーズに行うためにサービスのご契約をお勧めします。

なお、本サービスには OS の技術支援サービスは含まれません。OS の技術支援サービスを必要とされる場合は「日立サポート 360」のご契約をお勧めします。

付録 C ロングライフサポートサービスについて

ここでは、ロングライフサポートモデルに提供される「ロングライフサポートサービス」について説明します。

付録 C.1 ロングライフサポートサービスの概要

システム装置の動作環境を適切に維持することで、長期間の安定稼働を保証するサービスです。これにより、保守サービス期間を最長 7 年まで延長することが可能になります。

本サービスはシステム装置ご購入時にご契約いただく必要があります。

また、同時にハードウェア保守サービスを長期（6 年または 7 年）でご契約いただくことが前提となります。4 年目以降の保守サービスは、別途、保守会社とハードウェア保守サービスの締結が必要です。

なお、ロングライフサポートモデルの「無償保守期間のサービス内容」と「保守サービス期間」は、「付録 B サポート & サービスのご案内」P.63 に記載されている内容と異なります。それぞれ、システム装置に添付される「保証書」と、ロングライフサポートサービス契約時に提示される「サービス仕様書」の内容をご確認ください。



ロングライフサポートモデルの設置環境条件と有寿命部品は、その他のモデルと異なります。『ユーザーズガイド ~導入編~』（本書）および『ユーザーズガイド ~運用編~』に記載の内容をご確認ください。

付録 C.2 対象モデル

ロングライフサポートサービスの対象モデルは、システム装置に貼られているラベルの形名（TYPE）記載や、ご購入時にご指定いただいたセット形名で見分けることができます。

→ 「1.1.2 システム装置のモデルについて」P.2

付録 C.3 セルフチェックシートについて

ロングライフサポートモデルを使用する前に、『HA8000 シリーズ ロングライフサポートモデル 導入前 セルフチェックシート』に記載の内容を再度ご確認ください。

また、設置場所の変更など周囲環境が変わる場合には、添付のセルフチェックシートにて再度、指定の条件を満たしていることをご確認ください。

付録 D 預けて安心ロングライフモデルについて

ここでは、預けて安心ロングライフモデルについて説明します。

付録 D.1 預けて安心ロングライフモデルの概要

「預けて安心サービス」をご契約いただき、システム装置を日立のデータセンタに設置していただくことにより、システム装置の動作環境を適切に維持し、長期間の安定稼働を保証するモデルです。これにより、保守サービス期間を最長7年まで延長することが可能になります。

「ロングライフサポートモデル」は動作環境や設置条件などを定期的に点検する必要がありますが、「預けて安心ロングライフモデル」はシステム装置を日立のデータセンタに設置するため、定期的な環境点検は不要となります。

なお、「預けて安心ロングライフモデル」の保守サービス期間は、ほかのシステム装置と異なります。「預けて安心ロングライフモデル」に添付される「保証書」の内容をご確認ください。



預けて安心ロングライフモデルの設置環境条件と有寿命部品は、その他のモデルと異なります。『ユーザーズガイド ~導入編~』(本書)および『ユーザーズガイド ~運用編~』に記載の内容をご確認ください。

付録 D.2 対象モデル

預けて安心ロングライフモデルは、システム装置に貼られているラベルの形名 (TYPE) 記載や、ご購入時にご指定いただいたセット形名で見分けることができます。

→ 「1.1.2 システム装置のモデルについて」 P.2

索引

■ A

ACCESS ランプ 17
Adobe Reader [xxi](#)

■ D

DVD-ROM
イジェクトボタン [22](#)
入れる [23](#)
手動イジェクト穴 [22](#)
種類 [25](#)
取り扱い [25](#)
取り出す [24](#)
トレイカバー [22](#)
ビジーインジケータ [22](#)

■ E

ERROR ランプ [18](#)

■ F

FUNCTION スイッチ [18](#)

■ H

HDD ステータスランプ [14](#)
Hitachi RAID Navigator [8](#)
Hitachi Server Navigator [7](#)

■ I

IT Report Utility [8](#)

■ J

JP1/ServerConductor [7](#)

■ L

LAN ケーブル
接続 [43](#)
Log Monitor [8](#)

■ M

MAINTENANCE ランプ [15](#)
MODE ランプ [17, 18](#)

■ P

POWER ランプスイッチ [18](#)

■ R

RESET スイッチ [17](#)

■ S

SERVICE ランプスイッチ [17, 20](#)

■ U

UPS
接続 [42](#)
USB コネクタ [16, 21](#)

■ あ

安全にお使いいただくために
 一般的な安全上の注意事項 ix
 警告ラベルについて xv
 装置の損害を防ぐための注意 xi
 本マニュアル内の警告表示 xiii
 安全に関する注意事項 viii

■ い

入れる
 DVD-ROM 23

■ お

お問い合わせ先
 HCA センタ (HITAC カスタマ・アンサ・センタ) 61
 技術的なお問い合わせ 62
 欠品 62
 故障 62
 初期不良 62
 操作や使いこなし 61
 日立コールセンタ 62
 日立ソリューションサポートセンタ 62

■ か

拡張ストレージベイ (2.5 型) 13
 拡張ストレージベイ (3.5 型) 14
 拡張ストレージベイ (5 型 薄型) 14
 拡張スロット (PCI) 21

■ き

キーボード
 接続 39
 技術支援サービス 65
 規制・対策
 高調波電流規格：JIS C 61000-3-2 適合品 iii
 雑音耐力 iv
 電源の瞬時電圧低下対策 iii
 電波障害自主規制 iii
 輸出規制 iv

■ け

警告ラベル xv
 欠品 62

■ こ

コンセント 6

■ し

システム情報採取ツール 8
 システム装置
 使用環境 5
 信頼性 iii
 接続 38
 設置 28
 設置環境 4
 取り扱い 5
 ラック搭載 29
 周辺機器
 使用環境 5
 取り扱い 5
 重要なお知らせ iii
 種類
 DVD-ROM 25
 使用環境
 システム装置 5
 周辺機器 5
 商標 ii
 初期不良 62
 シリアルインタフェースコネクタ (COM0) 19

■ せ

製品保証
 保証期間 64
 保証規定 64
 接続
 LAN ケーブル 43
 UPS 42
 キーボード 39
 ディスプレイ 39
 電源コード 41
 マウス 39
 無停電電源装置 42
 設置環境 4

■ そ

操作パネル 13

■ て

- ディスプレイ
 - 接続 39
- ディスプレイインタフェースコネクタ 21
- 電源
 - 入れる 46
 - 強制的に電源を切る 49
 - 切る 48
- 電源コード
 - 接続 41
- 電源コネクタ 19
- 電子マニュアル
 - 使う前の準備 xxi
 - 開く／閉じる xxi

■ と

- 取り扱い
 - DVD-ROM 25
 - システム装置 5
 - 周辺機器 5
- 取り出す
 - DVD-ROM 24

■ ね

- ネットワークインタフェースコネクタ 19

■ は

- 廃棄・譲渡時のデータ消去 v
- 著作権 ii

■ ふ

- 付属ソフトウェア
 - IT Report Utility 8
 - システム情報採取ツール 8
 - Hitachi RAID Navigator 8
 - Hitachi Server Navigator 7
 - JP1/ServerConductor 7
 - Log Monitor 8
- フロントベゼル
 - 取り外し 37

■ ほ

- 保守サービス
 - 期間 64
 - 契約保守 64
 - 製品保証 64
 - 注意事項 64
 - バーコール保守 64
 - 無償保証 63

■ ま

- マウス
 - 接続 39
- マニュアル
 - 構成 xvi
 - マニュアルの表記
 - オペレーティングシステムの略称 vii
 - システム装置 vi
- マネジメントインタフェースコネクタ 20

■ む

- 無停電電源装置
 - 接続 42

■ ら

- ラックキャビネット
 - 収納 36
 - 取り付け 30
 - 取り外し 33
 - 引き出し 35

日立アドバンスサーバ HA8000 シリーズ

ユーザズガイド
～導入編～

HA8000/RS110 AM/BM/CM

2013年6月～モデル

初版 2013年6月

第2版 2013年9月

無断転載を禁止します。

 **株式会社 日立製作所**
ITプラットフォーム事業本部

〒259-1392 神奈川県秦野市堀山下1番地

<http://www.hitachi.co.jp>

R11BM01100-2